

同志社大学

2026年度教員採用試験

合格体験記



目 次

1. <文学部英文学科 生長 陽仁>英語科 京都府 高等学校
2. <文学部英文学科 三宮 愛子>英語科 島根県 中学校
3. <文学部英文学科 山崎 玲音>英語科 私立、京都市 中学校
4. <文学部哲学科 板森 野乃香>社会科 福岡県、広島県 中学校
5. <文学研究科哲学専攻博士前期課程 N.M.>
英語科 京都府、東京都 高等学校
6. <文学部国文学科 O.C.>国語科 私立 中学校、高等学校
7. <文学部国文学科 宇田 晃弘>国語科 私立 中学校、高等学校
8. <法学部法律学科 T.H.>社会科 私立 中学校、高等学校
9. <法学部法律学科 常森 楓矢>社会科 神戸市 中学校、高等学校
10. <法学部法律学科 佐竹 聡介>地歴公民科 京都府 高等学校
11. <法学部政治学科 小林 聖波>社会科 滋賀県 中学校
12. <経済学部経済学科 I.T.>地理歴史科 奈良県 高等学校
13. <経済学部経済学科 品田千春>社会科 私立 中学校、高等学校
14. <商学部商学科 Y.S.>商業科 長野県、東京都 高等学校
15. <商学部商学科 O.M.>商業科 新潟県 高等学校

16. <政策学部政策学科 進藤 絢世>社会科、地歴公民科 私立
中学校、高等学校
17. <政策学部政策学科 大竹 諒也>社会科 京都市 中学校
18. <文化情報学部文化情報学科 砂田 真優>数学科 京都市 中学校
19. <理工学部機能分子・生命化学科 井上 捺稀>理科 京都市 高等学校
20. <理工学部機能分子・生命化学科 M.A.>理科 私立 高等学校
21. <理工学部数理システム学科 澤岨 小太郎>数学科 大阪府 高等学校
22. <社会学部社会福祉学科 T.R.>京都市 小学校
23. <スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 I.H.>滋賀県 小学校

合格体験記

文学部英文学科

生長 陽仁

合格先：京都府

校種・教科：高等学校・外国語（英語）

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

1次試験は、教職教養試験及び専門（英語）の試験が、京都府「教師力養成講座」の受講生だったため免除となり、私は小論文試験と面接試験を受験しました。小論文試験の内容は、授業内で「ICT機器を活用する利点とその具体例を述べよ」というもので、事前に考えていた2、3つの例を明確に書くことを意識しました。面接試験では2人の試験官から、いじめ、ICT活用、教員の働き方改革に関しての自分自身の持っている意見を聞かれました。

2次試験は、英語で意見を述べる実技試験と、模擬授業や口頭試問、面接試験が合わさったものでした。その内、実技試験では、外国人と日本人の面接官2人から、外国人に対して京都府のお勧めしたい所や外国語を授業に教えることに関する個人的な意見を聞かれました。また、その後同じ受験者同士で5人1組となり、「教員が部活動の顧問になることが、教員にどのような影響があるのか」という議題に沿って討論をしました。

別日に行われる模擬授業においては、以下の5つの課題から1つ選んで試験当日までに準備をしました。

① 社会的な話題について、読んだことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えるための指導

② 「話すこと（発表）」における、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動の指導

③ 説明や討論などから必要な情報を抜き取り、概要や要点、詳細を把握する活動の指導

④ 「話すこと（やりとり）」における、やりとりした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して文章を書く活動の指導

⑤ 過去完了形に関する指導

模擬授業は5人の受験者が同じ部屋に入って、受験番号順に教壇に立って、ホワイトボードを使用しつつ指導をする形式でした。私の場合は3番目で、他に講師と思われる受験者の方が2、3人おられる中での指導だったので非常に緊張しました。課題の書き飛ばしなど、練習通りにいかなかった部分もあって焦りましたが、それでも10分間をやり切りました。

その後は、口頭試問がありましたが、印象に残っている質問は、自分の行った模擬授業に対して10点満点中で何点を付けるか、というものでした。私は3点と答えて、その理由を明瞭に述べることを意識しました。ここでは、自分の指導を客観視でき、落ち着いて改善点を述べられるかが見られていると思います。

その後の面接試験は、1次試験の面接時以上に、教育課題に対して数多くの質問がされ

ました。試験官の人数も３人で、１次試験の質問例が更に詳らかになったものが多いと記憶しています。

いずれの面接においても重要なことは、出された質問に対して落ち着いて真摯に答えることです。ここでの「落ち着き」は、質問を聞き直したい時に、試験官に丁寧に質問を繰り返していただくようお願いする姿勢なども含んでいます。日々の練習で、間を持って急がず答える癖を身に付けておく心安心です。

2. 教員採用試験対策について

１次試験のおよそ半年前から、本格的に教員採用試験の準備、対策を始めました。私は「教師力養成講座」を受講する内の１５回の講義で、教員としての資質や知識、様々な場面の対応法など、多くのことを学ばせて頂きました。また、演習校には３０日以上通わせて頂き、授業を見学させて頂くのみならず、卒業式や入学式などの大きな行事にも参加し、学校生活の実際の流れを体験させてもらいました。模擬授業も数回行い場数を踏ませてもらうことで、少しずつ自信をつけることが重要だと学びました。また、採用試験のための面接練習も見てくださり、教える上での「目的、場面、状況」を意識することなどのテクニックも沢山頂きました。面接では、想定外の質問もあるので、落ち着いて答えられるよう、日頃から気持ちを整え、心を鍛えることが重要です。

反省点としては、試験を始めとする教育課題に関する情報をよりいち早く手に入れておけば、焦りや緊張をより緩和できたのではないかと思います。試験対策は早ければ早いほど心の安定感に繋がることは間違いありません。自習した知識を、大学で学ぶ教職科目と関連させて覚えるとより、自分への理解へと繋がって効果的です。また、常日頃から、教育に関する記事や問題集を読む習慣を付けておくことこそが重要ではないかと考えています。

3. おわりに

試験に向けての「準備」が何より大切であると思います。いずれの試験も何度も繰り返し練習することが重要ですが、一人で練り上げるには限界があります。私の場合は本当に多くの先生方にアドバイスをいただき、常に添削してもらいながら、試験当日を迎えました。心が折れそうになった時、先生方が親身になり聞いてくださったことで精神面も支えられました。自分を支えてくれる人々のためを思って、苦しくても地道な努力を継続させたことが、思い返すと、非常にかけがえのない経験になっていました。皆さんも、絶対に教員になりたいという意志を強く持って臨んでください。応援しています！

合格体験記

文学部英文学科

三宮 愛子

合格先：島根県

校種・教科：中学校・英語

Ⅰ. 受験した自治体・学校の試験内容について

○一次試験

専門教養試験（60 分）、教職教養試験（20 分）、論述試験（40 分）

○二次試験

個人面接Ⅰ（30 分程度、面接官 3 人、場面指導＋質疑応答）

個人面接Ⅱ（30 分程度、面接官 3 人、模擬授業＋質疑応答）

[面接試験について]

○個人面接Ⅰ

場面指導

その場でテーマを伝えられる。

「授業中別のことをやっている生徒がいるがどうするか」

口頭試問

・実践したことの意味はなにか

・生徒に注意をするとき何が大切だと思うか 等

個人質問

・現在の英語教育についてどう思うか

・どんな授業をしていきたいか 等

○個人面接Ⅱ

模擬授業（6 分）

事前に送られていた二つのテーマからランダムに一つ指定。

ホワイトボードとペンのみ使用可能。

口頭試問

・実際にやってみてどうだったか。

・コミュニケーションの目的・場面設定は何か。等

模擬授業における自分の意図と英語の指導についての質問

個人質問

・学生時代で一番嬉しかったこと・一番苦労したこと

・周囲からどんな性格だと言われるか

・10 年後どんな教員になりたいか

・理想の教員像に近づくためにどのように行動するか

・長時間労働が問題となっている中で自分はどのように働くか

- ・ふるさと教育にどう取り組むか
- ・学校・家庭・地域の連携をどう進めるべきか
- ・教員によるわいせつ行為をどのように思うか、また起こる原因は何か
- ・自分は教育現場でどのように活躍できると思うか

2. 教員採用試験対策について

○一次試験

まず過去問と参考書を購入し、内容に目を通したり実際に解いたりしながら対策を進めました。大学の教職課程で学ぶ範囲ではあるものの、本番では想像していた以上に細かな内容が問われ、特に教職教養では勉強不足を痛感する場面がありました。一方で専門教養については大きな対策は取らず、どちらかといえば時間配分だけを意識して臨みました。論述試験に関しては、出題が想定されるテーマを事前に複数リストアップし、それぞれについて自分の考えをまとめておくことで対応しました。

○模擬授業

授業の目標や目的、そして場面設定を明確にすること、6分間の模擬授業だけでなく、1時間の授業全体の流れを想定することを意識して準備を進めました。板書計画を立てるなど、授業全体をどのようにデザインするかが大切だと思います。

○個人質問

想定される質問をリストアップし回答を実際に声に出しながら練習しました。その際、自己分析を行い、自分が教育や教員という仕事にどのような思いを持っているのか、その根本の部分を一貫させることを大切にしていました。また、友人に協力してもらい、面接官役として質問してもらったり、教育について雑談をしたりして自分の考えを深めていく機会を作っていました。

また、地域と教育のつながりや、自治体特有の課題について問われることが多いと聞いていたため、事前に教育委員会が発行している資料や教育ビジョンに目を通しておきました。県の方針や教育の方向性を理解した上で面接に臨むことで、地域に根ざした教育について自分の考えをより具体的に語れたと思います。

面接本番は結論ファーストで端的に、ハキハキと話すことを最も意識していました。

3. おわりに

私は地元の自治体の試験を受けるにあたり、主に地元の友人の協力を得ながら対策を進めました。また、友人だけでなく、教育実習先の校長先生やお世話になった先生方からも多くのアドバイスや励ましをいただきました。様々な人の支えがあったからこそ、最後まで前向きに取り組むことができたのだと思います。教員採用試験全体を通して、何よりも大切なことは、自分が「なぜ教員になりたいのか」「どんな教員になりたいのか」という軸をしっかり持つことだと思います。大学や周囲の人の力も借りつつ、自分自身の想いを大切に最後まで頑張ってください。

合格体験記

文学部英文学科

氏名 山崎 玲音

合格先の自治体・私立学校：京都市の公立中学校

校種・教科：中学校・英語

1. 受験した自治体・学校（私立）の試験内容について

一次試験：筆記試験（専門教養 100 点、一般・教職教養 30 点）、

個人面接（10 分）（うちロールプレイ 1 分：自分の場合は体育祭前日の終礼で言うこと）

実技試験（リスニング）

二次試験：1 日目-小論文、集団討議、Speaking（集団討議と同じぐらいの所要時間）

2 日目-模擬授業（8 分＋質疑応答 3 分）

（Speaking の試験内容は、集団討議と同じメンバーで行い、プリントの音読、出されたお題に対して自分の意見をまとめて 1 分ほどで口頭発表、それについて英語で集団討議）

使用教材：一次試験：

二次試験：YouTube

2. 教員採用試験対策について（いつ、どんなことをしたか、良かった点、反省点）

留学から帰国後の 3 月末に教員採用試験を受けることを決め、一次試験対策の教材を始めた。しかし身が入らず、1 ヶ月前になってやっと焦り始め、山を張って進めた。（配点が高い分野）

二次試験は特に対策をせず、大学でやった模擬授業などを振り返ってから臨んだ。指導案はゼミの先生に添削してもらいながら完成させた。

良かった点は、ポイントを絞って試験勉強をしたことと、大学の模擬授業が活きたこと。

反省点は、決断をするのが遅く、その影響で対策も十分ではなかったこと。

3. おわりに（これから教員を目指す後輩へのメッセージなど）

大学の授業で覚えるべきことは覚えてしまって、実践も大学の模擬授業で実践を増やせば効率よく対策ができると思います。また受験者もすでに講師などで現場経験を積んだ方も多いので、そこまでプレッシャーを感じず、チャレンジャー的な試験に臨んでもいいと思います。ただ、事前の準備をする分こと

は心に余裕を持たせることができると思うので、教員になると決めた時点で少しずついいから対策を始めるとより良いと思います。頑張ってください。

合格体験記

文学部哲学科

板森 野乃香

合 格 先:福岡県、広島県

校種・教科:中学校社会

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

私が受験した公立学校教員採用試験は、いずれの自治体においても一次試験と二次試験の二段階で実施された。受験した福岡県および広島県では、一次試験として筆記試験、二次試験として面接および模擬授業が課されている。

一次試験の配点については、福岡県では専門科目 200 点、一般教養・教職教養 50 点であった。広島県においても、専門科目 200 点、教職教養 50 点という配点構成であり、いずれの自治体でも専門科目の比重が高いことが分かる。

福岡県の専門科目は、出題範囲が広い点が特徴である。地理、公民、日本史、世界史といった各分野に加え、学習指導要領からの出題も見られた。問題形式は選択問題が中心であるものの、記述問題も含まれており、知識を正確に言語化する力が求められる試験であった。

一般教養・教職教養については、一般教養が 5 問と少なく、その多くを教職教養が占めていた。一般教養では、四字熟語やことわざがほぼ毎年出題され、国語 2 問、英語 1 問、数学・理科からそれぞれ 1 問ずつ出題される構成である。

一方、広島県の専門科目では世界史の出題はなく、全体として難易度が高い。特に記述問題の配点が高く、単なる知識の暗記では対応できない。資料を読み取ったり、事象をどのように生徒に説明するかといった教員としての実践的な力が問われる試験であった。

教職教養については、基本的な事項を押さえていれば対応可能な問題が中心であった。

二次試験について、福岡県では面接と模擬授業を合わせて約 30 分実施された。まず、場面指導を想定した模擬授業課題がその場で配布され、15 分間で授業構想を行う。その後、別室に移動し、10 分間の模擬授業を実施した後、20 分程度、模擬授業に関する質問および一般的な面接が行われた。面接官は 2 名である。

広島県の二次試験は二日間に分けて実施され、日程はあらかじめ指定されていた。模擬授業面接においては、地理・歴史・公民の中から当日に課題が提示され、30 分間の構想時間が与えられた後、15 分間の模擬授業を行った。模擬授業後には、約 25 分間の質問が行われ、面接官は 3 名であった。特徴的であったのは、面接官が生徒役になりきり、実際の授業場面を想定した発言を行う点である。

また、個人面接は面接官 2 名によって約 40 分間実施された。模擬授業面接と質問内容が重な

る場面もあったが、主に生徒との関わり方や教育観、志望動機について深く問われた。

2. 教員採用試験対策について

専門科目について本格的に対策を始めたのは、2025 年 2 月であった。まずは、中学校社会科（地理・歴史・公民）のすべての教科書を通読し、知識の全体像を把握することから始めた。その後、東京アカデミーの『ステップアップ問題集』を使用し、間違いがなくなるまで繰り返し解いた。

同時並行で、世界史・日本史については山川出版社の教科書を用いて読み込みを行い、基礎事項の確認を徹底した。過去問に取り組み始めたのは、試験の約 2 週間前からであり、これまでの学習内容がどの程度定着しているかを確認する目的で活用した。

暗記が難しい用語や事項については、百円ショップの単語帳に書き出し、登校時間やドライヤーを使用する時間などの隙間時間を活用して覚えるようにした。三回繰り返して定着したと判断したページは破り捨てるようにし、最終的には 30 冊程度の単語帳を作成した。

また、学習指導要領については、すべてインターネットから印刷し、繰り返し読み込むことで、表現や考え方に慣れることを意識した。

教職教養については、共同出版の『教職教養の要点整理』および『教職教養の予想問題』を使用した。まず要点整理を用いて基礎知識をインプットし、その後、予想問題に取り組むことで知識の定着を図った。

また、予想問題に登場した答申については、出題頻度が低いものも含めて文部科学省のホームページから本文を印刷し、内容を確認するようにした。一般教養については、問題数が少なく配点も低いため対策は特に何もしていない。

二次試験対策としては、教員採用試験対策講座を利用するとともに、森先生、奥野先生に個別指導をお願いした。特に、模擬授業練習を講座の仲間の前で実施し、第三者からの助言を受けながら改善点を見つけることができた点は大きな成果であった。

また、森先生には 2 月下旬から面接指導をお願いし、早い段階から自身の教育観や志望理由を言語化する練習を重ねた。奥野先生には、お盆期間中にも長時間にわたって面接練習に付き合っただき、実践的な受け答えを磨くことができた。

面接対策としては、面接ノートを作成し、想定される質問に対して約 200 問分の回答を準備した。しかし、回答を思い出そうとすると話せなくなるため、本番は、思い出そうとするのではなく、面接官と対話することを意識した。

3. おわりに

教員採用試験は人物重視であると言われることが多いですが、その前提として、十分な知識が備わっている必要がある試験だと感じました。対策すべき内容は多岐にわたり、やるべきことの多さに不安になることもあります。自分が後悔しないように準備を進めることが、本番で力を発揮するための支えになると思います。

本番では強い緊張から、思うように眠ることができない場合もあるかもしれません。私自身、不眠や吐き気といった厳しい状態で一次試験、二次試験に臨みました。それでも、これまでの取り組みと周囲の支えがあったことで、自分なりに力を出し切ることができました。

これから教員採用試験に挑む方には、一人で抱え込まず、周囲の力を借りながら、後悔のない対策をしてほしいと思います。心から応援しています。

合格体験記

文学研究科哲学専攻博士前期課程

N.M.

合格先：京都府、東京都

校種・教科：高等学校・英語

Ⅰ. 受験した自治体・学校の試験内容について

京都府

○一次試験

- ・6月 筆記試験（教職教養、小論文）
- ・7月 面接試験（約 10 分、面接官2人）

○二次試験 8月末

- ・面接試験（約 20 分、面接官3人）
- ・教育実践力テスト（約 10 分、5人1グループ、試験官2人）
- ・口頭試問（約5分、試験官2人、模擬授業の内容や指導法に関する質問）

※英検 1 級の資格所持のため、専門教養試験、実技試験免除

【面接試験について】

○一次試験

<質問内容>

- ・教師が生徒の信頼を得るために最も重要なことは何か。
- ・人から信頼を得るために日常的にどのような取り組みをしているか。
- ・教員わいせつ事案に関する報道を受けてどのようなことを感じたか。
- ・教員わいせつ事案はどのようにして防ぐことができたか。
- ・教員わいせつ事案を防ぐためにどのような取り組みが考えられるか。
- ・ハラスメントを防ぐためにはどのような対策が必要か。
- ・ネットいじめを防ぐためにはどのような対策が必要か。
- ・インターネットの使い方についてどのような教育を行うべきか。
- ・授業の中でどのように ICT を活用するか。
- ・学生時代に ICT を活用した取り組みの具体例。

○二次試験

<質問内容>

- ・併願しているのか。
- ・京都府の教育振興プランにおける3つの「はぐくみたい力」の内、重要だと感じるものを一つ選び、重要であるとする理由を答える。
- ・自己アピール
- ・不登校といじめについての自分の見解
- ・不登校についてどのような対策に取り組んでみたいか。

【模擬授業について】

授業時間：10 分程度

試験官：2人

試験形式：5人 1 グループになって、順番に授業を行う。他の人が授業をしている間は、生徒役として授業に参加する。5つの課題の中から選択した課題に基づいた授業の導入部分を指導する（課題内容は、一次試験の合格通知に同封）。指導メモ1枚のみ持ち込み可（模擬授業後に回収）。

【口頭試問について】

時間：5分間

試験官：2人（模擬授業と同じ試験官）

形式：個人面接

<質問内容>

- ・模擬授業と内容と指導方法に関して、工夫した点はどこか。
- ・英語を苦手とする生徒に対してはどのような指導を行うか。
- ・自分自身がどのように英語を学習したか。

東京都

○一次試験

- ・7月 筆記試験（教職教養、専門教養、小論文）

○二次試験

- ・8月 面接試験

※英検 1 級の資格所持のため、実技試験免除。

【面接試験について】

<質問内容>

- ・教員を志した理由について。
- ・東京都という自治体を志願した理由について。
- ・問題が起こったときどのように対処するか。
- ・その対処方法がうまくいかなかった時には、どうするか。

- ・悩みや困りごとを相談する相手がいるか。
- ・ストレスの解消法について。
- ・生徒との SNS での交流について。
- ・授業中に喋っている生徒がいる時、どのような指導を行うか（場面指導）。
- ・成績評価に関して、自分が担任をしているクラスの生徒の保護者から不満の声があった場合、どのように対応するか（自分の担当科目だった場合と自分の担当教科でなかった場合、それぞれを答える）。
- ・英語の授業において、どのような英語のスピーキング指導が実践するか（場面指導）。
- ・スピーキング指導をどのようにして対話的に実践するか（場面指導）。

2. 教員採用試験対策について

教員採用試験の受験は今年が初めてでした。2024 年（修士 1 年）の 11 月頃に教員採用試験を受けることを考え始め、教員養成アドバイザーの先生と面談をしました。その後、「教員採用試験対策講座」の小論文対策の講座とグループディスカッションの講座にできる限り参加しました。

しかしながら、教養試験、面接試験、模擬授業の具体的な対策はほとんどできていませんでした。いずれの試験に関しても、試験の前日にインターネットで過去問や過去に質問された内容を流し読みした程度で、参考書などを使った勉強をする時間を取ることはできませんでした。

3. おわりに

教員採用試験を振り返ってみて、一番大切なのは、教育に関する話題全般に対して、日頃から少しでもいいので意識を向けておくことだと思います。私の場合は、どんな授業をしたいか、どんな教師になりたいか、より良い英語教育とは何か、等といったことについて、友人と日常的に会話を交わしていたことが、何よりの試験対策になっていたと感じています。参考書を使ったり、講座に参加したりするような具体的な試験対策は、たくさんするに越したことはありません。しかし、対策が不十分だからといって諦めてしまうこともないと思います。小さなことでもいいので、教育や教師という仕事に関心を向けていくことは、教員採用試験対策に必ず繋がっていると思います。

合格体験記

文学部国文学科

O.C.

合 格 先:私立学校

校種・教科:中学校・国語／高等学校・国語

I. 受験した自治体・学校の試験内容について

〔私立学校1〕

① 書類選考

履歴書や成績など、指定された書類を郵送。書類が到着した翌日に電話が来て、面接の日程を決めました。

② 面接

こちらの学校はかなり特殊で、筆記試験・模擬授業等はありません。先方から指定されたテーマである「現代の教育問題三つとそのうちの一つの解決策について」の小論文を持参しての面接が最終選考でした。面接は、理事長・校長と私の二対一で、1時間ほど行われました。履歴書及び提出した小論文の内容に沿った質問が20分ほど行われました。自分の控えとして用意していた小論文まで回収されてしまい、面接中手元に小論文を置いておくことができなかつたのはかなり焦りましたが、なんとか内容を思い出して対応しました。また、それとは別に、子どもとの関わりや、職務についての考え方に関する質問が20分ほど行われました（例：生徒との距離感について／授業において大切なことは何か／ICTの活用についてどう考えているか など）。最後の20分で勤務形態や雇用条件について説明していただき、面接が終了。翌日、電話で採用いただける旨をご連絡いただきました。

〔私立学校2〕

① 書類選考

同じく、指定された書類を郵送。決められた日に書類が送られてきて、二次試験の日程・内容が通知されました。

② 筆記試験

60分間の専門科目に関する試験（教職教養なし）。高校生の実力テストレベル。記述がやや多かったように思います。

③ 模擬授業

校長・学科主任含む生徒役の教師9名の前で15分間の模擬授業を行いました。模擬授業に際して、学習指導案と、使用したい資料のコピーをあらかじめ提出しました。教材観等の説明は不要であるとのことで、教科書のどの部分から始めるか、というこ

とだけ授業前に説明しました。生徒役を指名した際、思うような解答を得られないことが二回ほどあったが、焦らず、解答に導くための手助けをすることを心がけました。

④ 面接

③で生徒役を行った教師9名と私で面接を行いました。履歴書に沿った質問のほか、国語教育や学校の方針に関する質問が行われました（例：古典教育が軽視されがちだが、どう考えているか／国語を教える上で大切なことは何か／我が校の教育理念のどういうところに共感したのか など）。面接が終わったその日の夜に、採用いただける旨をご連絡いただきました。

※②～④は同日

2. 教員採用試験対策について

勉強を始めたのは3回生の3月ごろで、周囲の教員希望の人と比べるとだいぶ出遅れたように思います。残念ながら不合格となったのですが、大阪市も受験していたため、主に大阪市の教員採用試験の過去問を解いていました。一般教養はSPIに似ていて苦手だったため、得意な分野を頑張ることに決め、教職教養と専門科目で安定して8～9割は取れるようになるまで勉強しました。専門科目については、大阪市の過去問以外に大学入試や共通テストの過去問もさらいました。

しかし、私立学校の採用試験については、筆記試験よりも面接対策の方がより重要だったのではないかと個人的には感じています。私立は各学校の特色や教育理念がはっきりとしていることから、「自分はこういう考えを持っていて、こういう強みがあるから、この学校に貢献できる人材である」とアピールすることが大切だと思います。私自身も、受験に際しては自己分析と受験校の分析に時間をかけ、自分の言葉で話せるようになるまで面接の練習を繰り返しました。もちろん、面接の質問を想定して対策を行いましたが、たまに想定外の質問があったときでも、自己分析により自分の軸がはっきりしていたため、慌てずに答えることができました。自信を持てるようになるまで面接の練習をしたことは、私学の採用試験対策として良かったと思います。

3. おわりに

試験内容は自治体や学校により様々で、やるべきことは多く、不安な気持ちでいっぱいになることもあるかもしれません。私自身教師塾に行っていたわけでもなく、確信めいた採用試験対策の極意を書くことはできないのですが、強いて言えば、一番大切なことは自分に向き合うことだと思います。「自分はどのような人間であるか」「なぜ教師になりたいのか」「どんな教師になりたいか」「教師としてどんなことができるのか」…書き始めるときりがないですが、自分自身を自分の言葉で語れるように、たくさん時間をかけて自分と向き合うと、おのずと自信もついてくるように思います。自分がやってきたことはどれも無駄ではなかったと思える日が来ることを願っています。

合格体験記

文学部国文学科

宇田 晃弘

合 格 先:私立学校

校種・教科:中学・高校 国語

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

僕が受けた学校では、一次試験で書類選考、二次試験で筆記試験（僕の場合は国語）、そして三次試験で模擬授業と面接という内容でした。学校によって多少違いはありますが、おそらく以上の内容の試験を実施している学校がほとんどだと思います。筆記試験では、基本自分の担当教科の試験を受けます。一部の自治体の教員採用試験のように一般教養が問われることは少ないと思います。試験の難易度は大体共通テストレベルくらいです。受験生時代に使っていた問題集を引っ張り出してきましょう。模擬授業は事前に教材を指定されるので、教材研究をしっかりとハキハキ話せば大丈夫だと思います。面接なのですが、私立学校を受ける際は、なぜその学校がいいのかという理由を明確にしておきましょう。他には、自分の専門教科についての質問や、教員としての心構えを問われます。

2. 教員採用試験対策について

僕は私立学校の他に、広島の教員採用試験も受けました。二回生の二月ごろから勉強を始めて、三回生の六月に一次試験を受けました。その試験には無事合格し、四回生の時には面接と模擬授業だけでよいという状況になりました。そして三回生の秋学期には、教員採用試験対策講座に行きました。正直行くかどうか迷っていたのですが、結果としては行ってよかったです。まず、この講座に行く人はほとんど教員を目指す人なので、行くだけでモチベーションの維持になります。僕はあまりモチベを保てないタイプなのでありがたかったです。そして、面接やグループ討論の対策には人と話すしかないので、そのコミュニティが講座内で作れるので、一人では難しい試験対策も行うことができました。この二つの理由が、行ってよかったと思う理由です。とりあえず、教員採用試験を受ける人は三回生の時に一度受けとくと、雰囲気などを知れて四回生の時に楽だと思います。合格できたらもっと楽だと思います。

3. おわりに

教職は就活に比べ、決まる時期がたいいてい遅いです。周りで就活が終わっていく人を見ると少し焦っちゃうのですが、同じく教員を目指す人が周囲にいと少し安心できます。大変だと思いますが、頑張ってください。

合格体験記

法学部法律学科

T.H.

合格先：私立学校

校種・教科：中高、社会科

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

試験内容：筆記試験(60分／地歴公民全般)
模擬授業(15分／分野・内容自由)
面接試験(15分程度)

2. 教員採用試験対策について

3年次の5月に、大阪市教育委員会が主催する「大阪市教師養成講座」の試験を受け、6月から半年間講座を受講しました。講座では、教科教育法だけでなく、教育観や大阪市の教育方針、生徒指導など、教師を目指す上で必要な心構えを学ぶことができました。

この講座には、半年間の講座を修了すると、大阪市教員採用試験の1次(一般・教職教養の筆記試験／面接)が免除になるという特例がありました。私は当初、この特例が目的で講座を受講しましたが、半年間を通して、「自分の軸」を見つけられたことが大きな収穫となり、特例をいただくこと以上の学びを得ることができました。

本格的に試験勉強を始めたのは、12月頃からです。まず大阪市の過去問を解き、現状の実力と苦手分野を確認しました。恥ずかしながら、広く浅い知識しか身につけていなかったため、大学受験用の参考書や問題集、YouTubeの解説動画などで、インプットする作業からはじめました。

人によっては、アウトプットすることで暗記が捗る方もいるかと思いますが、私はインプットした状態でアウトプットをして、自分の間違いを見つけていく方が記憶に残りやすかったため、その方法で少しずつ勉強を進めていきました。

この方法だとすごく時間がかかりましたが、受験を検討していた大阪市の、2次の筆記試験が専門教養のみであったこと、また、他の自治体受験は考えていなかったことから、専門教養の勉強に大きく時間を割くことができたのは良かったかもしれません。

春休みの2月3月からは、「全国まるごと過去問題集」や「中高社会の完全攻略」といった教員採用試験対策の参考書を使って演習を行いました。間違えた問題の答えをまとめて一枚の付箋に書いて貼る“付箋ノート”を作成し、間違いをいつでも見返せるようにするなど、「問題を解く→弱点を見つける→補強する→…」の繰り返しを行いました。

4年生になってからは、教員養成サポート室の先生方に面接練習をしていただいたり、私学の合同説明会に参加したり、同級生と情報交換をしながら引き続き勉強を進めていました。ただ、5月から

の教育実習期間中は勉強時間の確保が難しく、自習に集中せざるを得ません。そのため、それまでに不安を少なくしておくこと、また実習が終わってからの勉強の見通しを立てておくことが大切だと思います。

実習では実際の教育現場に出て子どもたちと触れ合ったり、実際に働かれている先生方の姿を間近で見ることができ、本当に得るものが多く、その経験は必ず面接試験や小論文試験などで活かすことができるので、勉強ができない分、自分の目で見て聞いて学ぶことがすごく重要になると思います。

私が実習を終えたのは6月中旬でしたが、この時期には既に採用試験が始まっている自治体もあり、私も私立学校にいくつか出願し、緊張感のある毎日でした。

7月初旬に、興味を持っていた私立学校の試験を受け、7月中旬に採用通知をいただいたため、大阪市の2次試験の受験はしませんでした。私自身、中高私立学校出身で、親近感があったこと、また、その学校の教育方針や学校理念に共感できるものがあったことから、私立学校で働くことを決めました。

○使用した参考書

- ・大阪府・大阪市・堺市・豊能地区の社会科 参考書／過去問（協同出版）
- ・中高社会の完全攻略（時事通信社）
- ・全国まるごと過去問題集 社会科（協同出版）
- ・30日完成スピードマスター 日本史／世界史／地理 問題集（山川出版社）

3. おわりに

教員採用試験は、短期集中ではなく、継続的に自分自身と向き合いながら進めていく必要があります。一般企業に就職する周りの友人が次々と進路が決まっていく時期は、焦りや不安を感じたりすることもあると思いますが、「教員を目指す」という気持ちを大切に、一歩ずつ準備を進めてほしいと思います。

採用試験対策は大変ですが、「大きなテスト勉強」のようにやればやった分だけ必ず自分の力になります。ただ、知識の勉強と同じくらい、自己分析も大切になると考えます。「どんな先生になりたいのか」「子どもたちに何を伝えたいのか」を考え続けることで、面接試験の際にも自分の言葉を自分の思いを話せるようになるのではないかと感じています。

私自身も、春からのことはまだ何もかもわからず不安ですが、これまでの自分の努力を糧に頑張ります。

皆さんのこれからを応援しています。頑張ってください!!

合格体験記

法学部法律学科

氏名 常森 楓矢

合格先:神戸市

校種・教科:中高・社会

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

神戸市の教員採用試験は大きく分けて1次選考と2次選考の2つに分けられていました。

○1次選考

・教職一般教養

・専門教科

・集団面接(教職一般教養を合格した者のみ)

※1次選考は専門教科と集団面接の合計点数で合否がなされる。集団面接は教職一般教養で一定点数を取得した者のみ(一般選考受験者数の8割~9割程度)実施される。

筆記試験について、すべてマーク式でした。

○2次選考

・個人面接(模擬授業(2分)、場面指導あり)

模擬授業は指導案(所定書式)(必ず A4 1枚におさめる)を事前に作って面接当日、紙媒体で提出が求められました。(出願教科であれば何をするか自由)

この他に1次選考より前に適性検査(WEB 受検)、エントリーシートがありました。

2. 教員採用試験対策について

○筆記試験

(教職一般教養)

参考書:特になし

問題集:「教職教養の過去問 全国版」(時事通信社),「神戸市の教職・一般教養 過去問」(協同出版)

を主に使っていました。

上記でも書いたように教職一般教養は点数化されないため、高い点数が必要となるわけではありません。また問題形式もマーク式で、問題自体それほど難しいものではないため何か教科書的なものを買って勉強することはしませんでした。(中学・高校の知識で十分だと思います。)ただし教職教養については知らないことが多かったため、全国の問題集を解いて知っていくということを繰り返していました。(大学3年の夏休みから1日1都道府県というペースで始めました。)加えて教育法規は頻出なので、解いて出た問題はノートに写し、空欄部分を赤シートで隠せるように工夫しました。

また神戸市は時事問題や時事に絡めた問題が例年出題されています。自分の受験した問題では、「子ども家庭庁」はどこの機関の外局か、「児童手当制度」の改正内容、「パラリンピック」の説明問題があり

ました。自分の受験する年の1年間どんな出来事があったのか振り返っておくと思います。私は「朝日キーワード 2026」(朝日新聞出版)を使って振り返っていました。1ページ1ページじっくり見ていくのではなく、ぱらぱらと気になる部分や出そうな部分を見ていく程度で良いと思います。すき間時間や通学時間、勉強の休憩がてら読んでいました。

(専門教科)

参考書:「中高社会の完全攻略」(時事通信社)

問題集:「全国まるごと過去問題集 社会科」(協同出版),「神戸市の社会科 過去問」(協同出版)を主に使っていました。

高校では日本史選択で、世界史を全く勉強したことが無かったので YouTube でトライを見つつ参考書に書き込むという勉強を3年の夏休みに始めました。そこからは上記の参考書をまず読んで、付属の問題を解いた後、全国の問題集を解いていきました。ただ解いていくのではなく、選択問題では「なぜこの選択肢は違うのか」ということを自分で答えられるかを意識して解いていました。その上で解説を読み、分からなかったところはノートにまとめたり、参考書に補足で書き込むなどして後でもしっかり学習できるようにしていました。

○個人面接

森先生から頂いた「面接質問例」を基に、どのようなことを話したいか要点をまとめ箇条書きでノートに書いていき、考えをブラッシュアップしていくことをしていました。そして森先生と面接練習を繰り返して考えを深めていきました。その際に追質問やアドバイスも書き加え、再び自分の中で考えることをしていました。また親にも練習に付き合ってもらうことをしていました。頭の中で考えていることを実際に相手に伝えることは難しかったり、自分では気付かない癖があったりするので第三者から見てもらうということが面接練習では大事だと思います。

私は4年の4月から面接練習を始めましたが、教育実習や筆記試験の勉強などが重なっていき、あまり十分に対策ができたと思えなかったので、3年のうちから対策することをお勧めします。

3. おわりに

教員採用試験を通じて人との繋がりというものが大事だとすごく感じました。教員採用試験「合格」までの長い道のりの中で、振り返ると面接対策やモチベーションなど、どうしても自分1人では難しいところが多々あったと思っています。一緒に勉強したり、分からない問題があったら「これってどういうこと?」と助け合える仲間や面接での答え方のポイントや場面指導について丁寧なアドバイスを下さった森先生など周りの人たちに支えられてここまでやってこられたと思います。ぜひ人との繋がりを大切にしてみてください。

また教員採用試験対策以外にも、ぜひ学校ボランティアをしてみることをお勧めします。実際の学校現場を見ることができるので、面接で何か話せるネタになるのではないかと思います。また先生方からもアドバイスをいただき本当に多くのことを勉強させていただきました。現在でも新任に向けて様々なことを教えていただいています。そして子どもたちと関わることで「やっぱり教師っていいな」や「絶対に教師になってやる」とモチベーションにもなりました。加えて自治体によっては活動日数に応じて教員採用試験での加点をしてくれる所もあるので、少しでも興味がある人はなるべく早くから活動すると良いと思います。

最後に教員採用試験「合格」までは長い道のりです。勉強をしていると「大丈夫なのかな」と不安になることもあると思います。皆さん、ここに来るまで一步步成長しています。自分を信じて最後まで諦めずにやり抜いてください。そして試験当日に「ここまでやって来たんだから大丈夫」と胸張って臨めるように今、頑張ってください。

長々と書いてしまいましたが、少しでもご参考になれば幸いです。陰ながら応援しています。

合格体験記

法学部法律学科

佐竹 聡介

合格先: 京都府

校種・教科: 高等学校・地理歴史公民科

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

【福岡県】 ※高等学校・公民科で受験し、二次試験で不合格

○一次試験(2025年6月15日)

- ・筆記試験のみ

- ・試験会場は、福岡県内の高等学校で、受付開始は9:15~9:45

① 専門教養試験(公民科)

- ・時間は60分

- ・問題形式は5つから1つを選ぶ選択問題(マーク式)が27問、約100字程度の記述問題が3問

- ・選択問題のうち、3問は高等学校学習指導要領から出題で、10問は倫理分野、14問は政治経済分野からの出題

- ・記述問題のテーマは、「小選挙区制と大選挙区制の長所と短所」、「情報の非対称性」、「ブッダの四法印」であった

② 教職教養試験

- ・時間は50分

- ・問題形式は4つから1つを選ぶ選択問題(マーク式)が25問

- ・選択問題のうち、6問は一般教養問題で、高校卒業レベルの国語・社会・数学・理科・英語から出題

- ・それ以外は教職教養問題で、教育系法規が多く、その他は中教審答申や学習指導要領、生徒指導提要からも出題

○二次試験(2025年8月9日)

- ・模擬授業と面接試験

- ・試験会場は、福岡県内の高等学校

① 模擬授業

- ・7分構想してから、教室へ移動し、10分模擬授業を行う(評価者は2名)

- ・内容は生徒指導系の模擬授業で、HRを想定して行う

- ・お題は「貴重品等の私物管理の重要性について」

- ・模擬授業中は構想の際に書き込んだ用紙を持ち込める

② 面接試験

- ・模擬授業が終了したらそのまま面接試験が始める
- ・時間はおおよそ15～20分程度
- ・面接官は模擬授業と同じ者で、2名
- ・質問内容は、「志望理由」、「なぜ高等学校公民科なのか」「人権教育について」「福岡県教育課題」「ストレス解消法」「自己啓発のためにやっていること」など
その他、自己PR用紙から聞かれた

【京都府】 ※高等学校・地理歴史公民科で受験し、合格

○一次試験（筆記試験：2025年6月14日 面接試験：7月6日）

- ・大学推薦をいただいたため、教職教養試験と専門教養が免除となり、一次試験の筆記試験は小論文試験だけであった
- ・試験会場は、京都市内の高等学校で、受付開始は8:30

① 小論文試験

- ・時間は40分
- ・解答用紙は横書き罫線、字数制限はない
- ・お題は例年「第二期京都府教育振興プラン」からの主題だったが、今年は文科省の答申からの主題であった

② 面接試験

- ・時間はおおよそ15～20分程度
- ・面接官は2名
- ・質問内容は、「教員の志望理由」「30秒で自己PR」「防災教育について」「京都府教育課題」「京都府が目指す教員像の5つ力のうち、持っている力と足りていない力について」「印象に残る教師とその理由」など

○二次試験（2025年8月19日）

- ・模擬授業と面接試験
- ・試験会場は、京都府内の高等学校

① 面接試験

- ・時間はおおよそ20分程度
- ・面接官は3名
- ・質問内容は、「授業における専攻・研究の活用」「ICTの活用」「教員の不祥事に対する認識」「生徒との適切な距離感について」「生徒とのSNSの交換について」「志望理由」「併願先の有無と両方合格時の対応」など

② 模擬授業

- ・一次試験合格通知と共に模擬授業のお題が提示され、当日までに指導メモ（簡易的な指導案）を完成させて、提出する

- ・お題は、「世界史：南北アメリカ史」「日本史：弥生文化の成立」「地理：地震と火山」「公民倫理：ブッダの教え」「公民政治経済：選挙制度」の5つから選ぶ
- ・時間は10分（導入の指導を行う）
- ・自身を含む受験生4～5名と一緒に模擬授業し、授業者以外は生徒役になる
- ・生徒役には問いかけたり、答えを聞いたりしても構わない
- ・評価者は2名
- ・ホワイトボードで、黒赤青のマーカーがあり、使用しても構わない
- ・模擬授業が終わると、一度控室に戻るが、そこから模擬授業に対する口頭試問が始まる
- ・口頭試問は模擬授業の評価者が面接官となり、受験者1人で行われる
- ・時間は10分程度
- ・質問内容は、「授業の狙い」「自己評価」「お題を選んだ理由」「ICTの活用」「単元計画について」など

2. 教員採用試験対策について

まず、専門教養試験の対策から始めた。3回生の夏から、高校生の時に習っていない日本史と地理の勉強から始め、教科書や参考書を1周した。そこから、世界史、倫理、政治経済の内容も学びなおしをして、2024年内にある程度の知識を整理した。

2025年に入ってから教職教養試験の対策を始めた。対策の内容としては、はじめに自身が受ける自治体の教職教養試験の出題範囲を確認し、出題されない分野の勉強はせず、出るところだけを絞って、参考書や学習指導要領、各種答申などで勉強した。

3、4月ごろから受験する自治体の教職教養・専門教養試験の過去問を解き始め、過去問で間違えたところを中心に振り返りをして、覚えるということを繰り返し行い、また、専門教養に関しては本格的に覚えることを始め、試験当日まで知識を詰め込んだ。

そして、4月から面接試験の練習も始め、主に教員養成サポート室アドバイザーの森先生に面接練習をしていただいた。頻度は週に1回程度で、試験が近づく6月には週に2～3回行った。その他にも免許資格課程センターの柳澤先生や沖田先生にも面接練習をお願いし、していただいた。個人的な練習方法としては、まず面接で聞かれる項目を受験する自治体の過去問集などからピックアップし、それに対する自分の答えを書いて、面接練習で先生と一緒に加筆訂正しながら、自分の言葉にして伝えるということを行った。

模擬授業の対策に関しては、一次試験の合否が分かってから本格的な対策を始めた。福岡県は生徒指導系の模擬授業であったため、対策が難しかったが、森先生に相談しながら、模擬授業を指導していただいた。一方、京都府は事前にお題が出され簡易的な指導案を書かなければならなかったため、逆に対策しやすく、元社会科教員である柳澤先生に対策をしていただいた。柳澤先生には合計4回、指導案の添削と模擬授業を見ていただき、常に修正しながら、万全の状態で試験を迎えられるように準備を行った。

3. おわりに

去年の今頃は、まさか自分が現役で高等学校・地理歴史公民科の教員になれるとは思っていませんでした。大切なことは3つで、1つ目は計画を立てて行動をするということです。何月までにここを終わらせる、今日はここをするというようなことをしっかり決めて、それに責任をもってやり切る、そして、今日すべきことが終わったら自分の好きなことをするみたいに計画性とメリハリを持って対策を進めました。

2つ目は、学校現場に行くということです。私は学校ボランティア、現在は京都市の総合育成支援員として積極的に学校現場で働き、大学の講義等では得ることのできない直接的な生徒との関わりを通して、多く学ぶことができますし、今行われている教育を知ることもできます。そして、この経験を面接試験などで語れるというのは大変大きな武器ですので、是非積極的に学校現場に行ってほしいと思います。その他には教育実習も大変大きな経験となりますし、各自治体の教員養成塾などのセミナーに参加することも必ず力となります。時間のあるうちに、積極的に行動を起こすことが重要です。

3つ目は、最後まで「自分は絶対に合格して教員になるんだ!」という気持ちを常に持ち、諦めないことです。教員採用試験は本当に長期戦で、モチベーションをどの程度高く持てるかが重要になってきます。周りの友達は早く進路が決まって羨ましく思ったり、教育実習や学部での授業などで忙しく計画通りに勉強が進まず不安になったりすることはよくありましたが、志を忘れず、たまには好きなことをして息抜きをしながら、強く気持ちを持って最後まで諦めずに取り組んでほしいと思います。

みなさまのご健闘をお祈りいたします。頑張ってください。

合格体験記

法学部政治学科

小林 聖波

合 格 先:滋賀県

校種・教科:中学校・社会科

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

一次試験:小論文(600字/30分)

専門科目(60分)

教職教養・一般教養(10問・12問/40分)

二次試験:指導実技(模擬授業)(8分構想/10分間の模擬授業)

個人面接(10分程度/6問程度)

「志望理由、場面指導、教師になったときの課題」

集団討論(15分程度/6人【同じ教科】)

「最近の子どもたちの課題である自己肯定感をあげるためには」

2. 教員採用試験対策について

小論文は、毎日一題書いていました。具体例やこれまでの学校現場での経験を書くこと評価が高いみたいです。

専門科目は、山川の日本史探究の教科書を使っていました。滋賀県は過去6回連続で近代が出ているので抑えておくといいです。京都府や京都市、神戸市は問題傾向が似ていると思います。併せて解くといいと思います。地理や公民は中学レベルの問題が出ます。基礎を完璧にしておくことです。一次試験で専門の比重が大きいので満点をとるつもりで勉強する必要があります。

教職教養は、『全国まるごと問題集』を使っていました。また滋賀県独自の問題は、「滋賀県教育振興基本計画」を見ておくといいです。

模擬授業は、県庁の史料館に過去問があります。3年ほど変わっていないので、その過去問の授業を作っておくといいと思います。「タブレットを使って授業をすること、展開をすること、めあてを書くこと」と言われるのでそれらは抑えておくいいと思います。

個人面接は、面接シートにかいたことを聞かれるのでそれをもとに練習するといいです。場面指導のパターンの引き出しを増やしておくことをおすすめします。集団討論は、練習する中でいい意見を自分のものにしておくことです。

3. おわりに

試験対策は、先生方や仲間に頼ることがいいと思います。あと情報収集も大切です。

合格体験記

経済学部経済学科

I.T.

合格先:奈良県

校種・教科:高等学校 地理歴史

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

茨城県(1次試験不合格)・奈良県(合格)・東京都(1次試験不合格)

茨城県

1次試験(5月上旬)

筆記試験(世界史) ※専門科目のみ

全問マーク式であり、教職教養がないのがこの県の特徴です。また、専門科目の試験においても自分が将来教えたい科目(日本史・世界史・地理・倫理・政治経済)1つを受験するので、対策がしやすいかと思われます。一方で、それぞれの科目で採用枠が準備される点や、対策を特化できる点、マークシート方式であることなどから、1次試験の基準合格点は高いことが予想されます。

奈良県

1次試験(6月中旬)

筆記試験(地理歴史+教職教養)

公民分野(倫理・政治経済)の出題は一切ありません。(公民科の採用枠もありません。)試験内容としてはマークシート形式と論述形式の併用です。しかし、語句(単語)の記述は出題されないの、しっかりと論述対策をすることが大事だと思います。論述問題は地理・日本史・世界史から各1問ずつ出題されました。

2次試験(8月上旬)

面接試験

出願時に地理・日本史・世界史のうち一つを選択し、選択した科目についての質問がされます。私は日本史を選択しました。

質問内容は以下の通りです。(科目の内容について)

- ・時代を1つ選んでください。
- ・その時代の中でどの内容を扱いたいのか教えてください。
- ・その内容について、1時間の授業展開を述べてください。

- ・その授業における学習目標を教えてください。
- ・学習目標を達成できたかどうかをどの様に評価するのか教えてください。

上記のように、答えた内容について深ぼられていく形でした。そのため、自分で指導案を作り、頭の中でしっかりとイメージできていることが大事だと思います。

もしかしたら、奈良県は模擬授業をする場面がないので、その変わりとしてこのような質問をしているのかもしれませんが。

また、生徒（場面）指導や自分についての質問は科目の質問が終わった後にされましたが、質問内容としては一般的なものが多かったイメージです。

東京都

1次試験(7月上旬)

筆記試験(教職教養+日本史) ※小論文あり

全問マーク式で、問題数が20問と非常に少ないです。(10問:社会科全般、10問:自身の専門分野の計20問)制限時間に対して、かなり余裕があるので、確実に得点することが大事だと言えます。一方で、小論文(1000 字程度)は制限時間に対して書き慣れていないとあまり余裕がないかと思われますので、忘れずに対策しておきましょう。

2. 教員採用試験対策について

私は、採用試験の対策を始めたのは3年生の秋学期の期末試験が終わってからでした。

また、勉強開始時の自分は高校生のときに日本史と倫理政経を学んだだけ(正確には世界史Aも学習済み)で、非常にまずい状況でした。しかし、この状況から合格できたのは、戦略を自分なりにしっかりと練ってそれを実行できたから(当日の運もありますが…)だと思います。

もし、しっかりとこの合格体験記を読んで頂いていたら、一つ不思議に思ったことがあるかと思います。それは、茨城県と奈良県・東京都の受験時の選択科目が違う点です。これはわざとそうしました。というのも、茨城県は受験日程が早いかつマークと知っていたのであまり勉強できていない世界史で模試のように受験して、奈良県に繋げようという戦略です。(本当は、受験したからには1次試験合格したかったですが、3ヶ月程度では間に合いませんでした…)この甲斐があつてか、奈良県の1次試験は突破できました。

では、肝心の勉強方法です。(ここでは世界史についてです。)これも正直、真似すべきだとは思いますが、ギリギリなら有効なのかもしれません。それは何かというと、何も全くわからない状況でセンター試験や共通テストを解くことです。もちろん初めは解けません。ですがそれで構いません。これらを15年ほど解いて、解説を読んで、を繰り返していくと「あれ、見たことあるぞ。」となります。そうして、「この前似た問題やったな。なんだっけ…」という思い出す作業を何度もやっていくうちに自然と覚えていきます。しかも、ここで推すポイントとしては、センター試験や共通テストをとってきている点です。皆さんもご存知の通りこの試験は1年解くだけで幅広い分野の内容に触れられ、そしてマーク試験であることから誤文の作り方も学べるという、非常に効率的な勉強ができる点です。(自分の受験した自治体の試験方式が、マ

ークシート中心だったので練習にもなりました。)この様な形で、高校生のときに深く学んだことのなかった科目には対処していきしました。他の分野(日本史など)については受験する自治体の過去問を5年ほど解いて対応しました。総じて、習うより慣れよの演習中心スタイルで勉強したのが功を奏したのかもしれませんが。

続いて小論文についてです。これも、過去問を見て実際に自分で時間を測って書くことが大切です。思いの外、書くのに時間がかかることにも気付きます。また、自分の答案を誰かに見てもらって添削を受けてください。自分の足りない部分に気付けます。もし、すぐに見てもらえる人がいない場合はAI(ChatGPT、Gemini など)に頼ってもいいと思います。自分も、「〇〇という論題に対して、以下のように論述しました。この文章に対して批評(添削)してください。」という様な形で活用しました。(もちろん鵜呑みにしてはいけません。あくまで参考程度にです。)

最後に面接についてです。面接は想定問題などが過去問以外にもインターネットを検索すると出てきます。これらの問題に対して、キーワードだけを書き留める程度にしていました。個人的な考え方ですが、面接の場で丸暗記した文章を言ったとしても面接官には響かないように思います。加えて、丸暗記した文章をもし、緊張で忘れてしまったら、余計にテンパって思っていたパフォーマンスができないと思います。このように考えていたので必要以上に準備はしていませんでした。とはいっても、誰かと練習はしてください。対人ならではの緊張感を感じたり自分の話し方の癖などが客観的に見ることができたりするはずです。また、意外かもしれませんが、私は面接練習にもAI(ChatGPT、Gemini など)を使いました。音声入力もできますし、いつでも出来るので便利です。

3. おわりに

教員採用試験は早期化されているとはいえ多くは5月～7月、合格発表に至っては9～10月と非常に長いものです。周りの友人は3年の終わりから4年の始まりにかけて内定が出たと話している様子を見て、辛く感じることもあるかと思います。ですが、ここまで粘り強く頑張ってきた自分を信じて最後まで走り抜けてください。採用試験は自分のすべき事を明確にして、それに向かってひたすら取り組めば合格できます。大切なのは諦めない気持ちや本当に教師になりたいという気持ちです。自分も試験勉強を始めたてのときはやらなければいけない事が沢山あって本当に合格できるのか不安になることもありましたが、この気持ちを大事にして頑張ってきました。今できることを全力で取り組めばきっといい結果になるはずです。頑張ってください。応援しています。

合格体験記

タイトル まっすぐ向き合う今に

経済学部経済学科

品田 千春

合格先:新潟市

校種・教科:中高・社会

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

1次試験は専門 200 点満点、一般・教職 50 点満点の筆記試験。2 次試験は個別面接とグループディスカッション。

1 次試験である筆記試験は、4 つの大問に分かれている。大問 1－3 は地理、歴史、公民と分かれており、大問 4 は選択形式で、地理歴史公民のいずれかより選択する。大問 1－3 の内容は共通テストレベルの問題を中心に国公立レベルの問題が出題された。大問 4 では記述式の問題を中心に国公立レベルの問題が出題された。7 割以上は正答できていたと感じる。6－7 割が最低ラインになっていると予想する。

2 次試験は個人面接とグループディスカッション。まず、面接官 3 人に対して受験者 1 人の個人面接を行った。志望動機や採用した際のメリットなど、基本的な質問が 3 問程度される。その後、面接官の 1 人が生徒役となり、場面指導を行う。状況が説明された神を渡され、準備ができたなら手を挙げる。生徒役の面接官と 3 分程度会話をし、課題を解決する。今回は、「友人に助けてもらうことを嫌がっている生徒に対してどのようなカウンセリングを行うか」といった状況であった。1 時間程度待機した後、グループディスカッションへと移った。グループディスカッションは、2 人の面接官に対して 4 人の受験者であった。ディスカッションの題は、「新潟市のいじめの認知件数が上昇していることに対して何を感じるか」「学級経営について新学期から注意すべき点」であった。受験者は、新任教員として学年会を行っているという設定であった。はじめに順番に意見を言ったのち、更に意見のある人が挙手をする形式であった。面接官は基本的に観察者の立場であった。最後にこのディスカッションを通して、心に残った他の受験者の意見を発表して終了した。相手の意見を認めつつ、自分の意見を正確に伝えることが重要であると感じる。

2. 教員採用試験対策について

専門分野と一般・教職教養の比が 4:1 であったため、専門分野の学習を中心に進めた。一通り基礎を固めた。世界史と地理を高校時代に履修していたため、教科書や一問一答を用

いて復習を進めながら、日本史は通信教材を用いて基礎を固めた。倫理政治・経済二に関しては、共通テスト対策の教材を使って学んだ。倫理は出題される年とされない年があったが、念の為基礎的な知識は網羅した。過去問に関しては、ある程度の基礎ができるようになってから確認した。半年前に5割程度であった。傾向が過去3、4年で変更されていたため、それ以前のものには触れることはあまりなかった。過去問を分析し、出題傾向にあるものに焦点を当てることが最重要であると思う。出題される問題には国公立2次試験レベルの問題も含まれていたが、共通テスト(センター試験)で8割程度得点できるレベルであれば問題ないと感じる。最終的に応用問題はほとんど手を付けず、過去問と共通テストレベルの教材を用いて試験に臨んだ。

2次面接の対策としては、教育に対する自身の軸となる考えを構築することが重要であると感じた。教員サポート講座でいただいた質問例すべてを想定しながら自分の回答を考えて。数百の質問に答えていくうちに、自分の中で重要であると感じている考えが明確になっていった。重要なのは1つの質問に対して1つの回答を作ることではなく、どのような質問をされても回答できるように、自分の考え方をまとめることであると感じた。そのため、面接に対する緊張感はなく、自信を持って回答することができた。

3. おわり

大事なものは生きる意志です。あなたは未来に興奮していますか？もし興奮しているのなら本当にやりたいことです。これがやりたいと、自然に動いてしまう、そんな前向きな未来へのエネルギーがあれば何があろうと大丈夫です。勢いのまま、やりたいことをやりましょう。まっすぐ向き合う現実(いま)に誇りを持つために戦うことも必要なのさ〜♪頑張れ!!!

合格体験記

商学部商学科

Y.S.

合 格 先:長野県、東京都

校種・教科:高等学校・商業科

I. 受験した自治体・学校の試験内容について

<長野県>

一次試験【2025年6月28日(土)】

○筆記試験

①小論文

テーマ:「授業で探求的な学びを実現する上で大切にしていることについて、自分の体験をもとに述べなさい」

②専門科目と教職教養 ※今年度から一般教養は廃止

③適性検査

日ごろの行動や考え方に関する質問のみ

○面接カード【2025年7月25日(金)必着】

以下の13項目を手書きで記入

- ・【高校】高校生活で印象に残っていること(クラブ、ボランティア活動を除く) <7行>
- ・【大学等】卒業論文、ゼミ等の研究テーマと内容の概要 <7行>
- ・【高校】クラブ、ボランティア活動等の活動事項と印象に残っていること <5行>
- ・【大学等】クラブ、ボランティア活動等の活動事項と印象に残っていること <5行>
- ・特殊な活動歴、生活歴(あれば記入) <4行>
- ・健康状況 <1行>
- ・趣味、特技、愛好するスポーツ等 <3行>
- ・顧問を希望するクラブ活動、指導できるクラブ活動 <1行>
- ・自分の性格の長所、短所 <4行>
- ・教員志望理由及び抱負(自己PRを含む) <14行>
- ・現在の高校教育や高校生について考えること <16行>
- ・教員としてのコンプライアンス(法令順守)について考えるところ及び自らのコンプライアンスについて心がけていきたいこと <13行>
- ・様々な問題を抱えていつ生徒と向き合っていくために、また保護者や同僚と円滑なコミュニケーションを図っていくために必要だと思うこと <15行>

○オンライン適性検査

日ごろの行動や考え方に関する質問のみ

二次試験【2025年8月8日（金）】

①面接（面接官3人）

面接カードを基に質問。

【窓側の面接官】雑談を交えた質問が多い

- ・高校時代、印象に残っていることから頑張ったこと、大変だったこと
- ・最近さまざまな教え方があるよね、例えば、動画とかも活用したのか
- ・その際に、気を付けたことはあるのか

【中央の面接官】深掘りが中心

- ・面接カードの内容以外で、いまの高校生の具体的な特徴
- ・教員はブラックと言われるが、解消できるか
- ・どのように ICT の活用をしていくべきか、実習校ではどうだったか
- ・コンプライアンスに関して考えること

【廊下側の面接官】義務的な質問が多い

- ・長野県の第四次教育復興基本計画に関して知っていること
- ・クラブ活動を担当してもらえるかの確認
- ・取得予定免許状の確認

など

②模擬授業（面接官3人）

直前に、模擬授業の内容は公開される。部屋に入ったら椅子と机があり、裏向きに紙が置いてあった。表にしてから1, 2 分考える時間をもらえ、問題の紙に加え紙とペンを用意されているので、そこに自由に書いてもよいと言われた。紙には 2 つ問題が書いてあり、どちらか自分の答えやすいのを選択して、答える方式であった。その後、10 分実演しなさいと言われた。黒板を使えという指示はなく、自分がわかりやすく伝えられるところでしてくださいと言われた。その後、10分程度質問された。

（問い）

「売上原価の求め方に関して、売上原価が持つ意味も分かるように説明しなさい。」

【窓側・真ん中の面接官】模擬授業の内容についての質問

- ・いまの説明で生徒たちに伝わるか。
- ・もし、伝わらないのならどの部分が足りないか。
- ・答えた内容から派生させた追加質問

【廊下側の面接官】義務的な質問が多い

- ・健康状態の確認
- ・希望する地域とずれる場合もあることの確認
- ・併願状況の確認

など

<東京都>

一次試験(2025年)

○筆記試験

①専門科目

②教職教養

③小論文

テーマ:「各学校では児童生徒が互いの良さを見つけ、多様な考えを尊重し合うことができるよう、教育の充実を図っています。

(1) 児童・生徒が互いの良さを見つけ、多様な考えを尊重し合うことについて、あなたの考えを、理由を明確にして述べなさい。

(2) (1)の考えを踏まえ、あなたは教師としてどのように取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して述べなさい。」

二次試験

○面接 30分(面接官3人)

面接カードを基に質問。同じような内容を何回も深掘りされた。

- ・緊張しているか
- ・なぜ志望したのか
- ・どのような先生だったのか(恩師の先生に関して)
- ・悩んでいた内容はなにか
- ・どのような対応を取ってもらえたか
- ・自己PRに関して、なぜ結果的に上手くいったのか
- ・その際に、あらゆる人から反論はなかったか
- ・どのように全員の意見をまとめたか
- ・個人的に生徒とSNSを交換し、2人きりで会った。これのどこが問題と感じるか
- ・そのほかに問題となる点はあるか
- ・教科の内容にて、どの分野が難しいと感じるか
- ・勉強が分からない生徒たちへのアプローチに関して具体的に

など

2. 教員採用試験対策について

筆記試験では、過去4年間の問題を中心に対策を行っていた。本格的に取り組み始めたのは4年生になる直前だった。長野県の試験は論述式なため、早くからの準備が必要であると感じた。一方、東京都は出題傾向が安定しているため、過去問の徹底が有効であると思う。面接や模擬授業については、事前に内容が分からない部分が多いため、教育法の授業などを通して、話すことに慣れるようにしていた。また、教員養成サポート室の講座を3年次から4

年次にかけて活用した。3年次は小論文やディスカッションを中心に学び、4年次には自己分析、個人面接、集団面接、自己PRの作成、模擬授業練習など、幅広い講座が設けられていた。全てに参加することはできなかったが、可能な限り活用した。特に役立ったのは面接の質問集である。そのなかにある全ての質問に答えられるよう準備し、Wordに入力して整理していた。短い文章であっても一度すべての質問内容を言語化することが重要であると感じた。

3. おわりに

私は面接、模擬授業、小論文が苦手で、いい評価をもらえることはほとんどありませんでした。これで大丈夫、完璧だという日は合格をもらえた今でもありません。それでも、合格できたのは教師になるのだという強い意志を持って取り組んでいたからだと思います。ひたむきに努力し続ければ必ず結果はついてきます。誰かと共になって、励むことも大切ですが、自分自身の志を高く持ち続けることも大切だと思います。周りと比べる必要はありません。無理に周りと合わせなくても大丈夫です。自分のペースで、一步一步前へ進んでください。ですが、すべてを一人で抱え込もうとすると疲れてしまいます。そこで、森先生をはじめとするサポート室の仲間を頼ってください。たまにしか行きませんでした、いつでも温かく受け入れてくださいました。商業科を目指す人は年々減少しているという話を聞きます。もしかしたら、商業科自体無くなるかもしれません。実際に同大学で商業科を受験する人は私しか居なく、寂しさもありました。だからこそ、もし商業科の教員を目指したいという人が居ればサポートしたいと思っています。ぜひ、私を活用してください。いつでも待っています(@_rat.s_)。

長々と読んでいただきありがとうございました。みなさんの健闘を心から祈っています。

合格体験記

商学部商学科

O.M.

合格先:新潟県

校種・教科:高等学校・商業

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

1 次試験(夏日程)

筆答検査Ⅰ:教職教養及び一般教養(55 分)

30 問

筆答検査Ⅱ:出願教科に関する問題(90 分)

商業科の目標、全商簿記検定 2 級程度の問題、フローチャートなど

2 次試験

個人面接Ⅰ:学習指導や生徒指導等に関する事項(25 分)

面接官 2 人

内容

学級経営、いじめ、商業科目、アントレプレナーシップ教育について

個人面接Ⅱ:教員としての資質・能力に関する事項(25 分)

面接官 2 人

内容

志望理由、教育実習、目指す教員像、社会人基礎力などについて

2. 教員採用試験対策について

1 次試験の対策

試験の約 1 か月前から対策を始めた。配点が高い出願教科の勉強を優先的に取り組んだ。

取り組んだこと

一般教養と教職教養

- ・問題集を購入し、ひたすら解いて分からない部分は解説を読んだり調べたりした。
- ・過去問を解いた。(1 週間前頃から)
- ・時事問題をネットやニュースで見るようにしていた。

出願教科(商業)

- ・高校で使用していた検定の本を一通り解いた。
(特に簿記と情報処理)
- ・過去問を解いた。(1 週間前頃から)

2 次試験の対策

1 次試験の結果が分かった時点から対策を始めた。

取り組んだこと

- ・自己分析
(改めて自分と向き合い、教員に対する想い、強み、弱み、自分らしさを言語化した。)
- ・面接対策本を購入し、自分の言葉で一通り回答を考えた。
- ・生徒指導提要にざっくり目を通した。(いじめや不登校の部分を重点的に読んだ。)
- ・県の教育理念や求める教師像、魅力などを探し、自分の経験と紐づけた。
- ・知り合いの学校の先生に面接練習をお願いし、実践練習をした。(試験 2 日前)

良かった点

- ・試験までの期間でモチベーションが下がったときに、自分と向き合う時間を設けた。
→ 自分が教員を目指す理由を再確認し、最後までやり切ることができた。
- ・自分一人で抱え込まなかった。
→ 知り合いの先生に何をしたらいいか分からなくなった際にアドバイスを貰ったり、面接練習をお願いして実践練習をしたりすることができた。
- ・息抜きもしながら最後までやり切れた。
→ 友人とごはんを食べに行ったり、社会人サークルで活動したりする時間を確保することで試験対策へのモチベーションが下がらないように工夫することができた。

反省点

- ・試験までを逆算して計画を立てることができなかった。
→ 試験の対策の仕方が分からなかったため、がむしゃらに試験までの期間を過ごしてしまった。計画をしっかりと立てて取り組むことができていたら、自信を持った状態で試験に挑めたと思う。
- ・生活リズムを整えることができなかった。
→ 朝早く起きることが苦手なため、試験対策を夜遅くまでやってしまうことが多かった。寝不足になってしまう日が多く、だったら対策を始めてしまうことがあった。

3. おわりに

私は教育実習を通じて、教員は生徒とともに成長することができる素敵な職業であるということ、生徒や先生方と関わる中で最も自分らしくいることができる環境が学校にあるということに気付くことができ、教員を目指すことを決意しました。教育実習以前は、民間企業への就職を決めており、内定をいただいていた。このため、教員採用試験までの期間は他の人と比べてとても短かったと思います。教育実習中に申し込みの締め切り日があり、試験まで 1 か月しかありませんでした。それでも、多くの人の支えがあり、合格することができました。私がこれから教員を目指す人、迷っている人に伝えたいことは、自分自身と素直に向き合い、自分で選ぶ道を妥協せずに突き進んでほしいということです。今、教職課程を履修している人の中で、教員になるか民間企業に就職するか迷っている人もいます。私と同じように、教育実習に行ってから教員を目指すように考える人もいるかもしれません。どんなきっかけでどんな決断をするかは人それぞれですが、どんな選択をするにしても後悔しない選択をしてほしいです。そして、自分で選んだ道を自分で正解にする覚悟を持って最後まで諦めずに追いかけてほしいです。まだ教員になるか民間企業に就職するかを迷っている人は、自分が興味のある自治体だけでも教

員採用試験について調べ、少しでも対策をしておくといいと思います。

4 月から教員としての道を進みますが、今まで関わってくれた人への感謝の気持ちを忘れず、自分自身と生徒と向き合い続け、目指すべき姿に向かって成長し続けていきたいと思っています。

合格体験記

政策学部政策学科

進藤 絢世

合格先:私立学校

校種・教科:中学校・社会科、高等学校・地歴公民科

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

一次試験は書類選考でした。二次試験は事前に学校から出題される論作文(1500字程度)を作成し、試験の日に提出しました。内容は「近年の教育課題を3つあげ、そのうちの1つについて自身の考える解決策を論じなさい」でした。二次試験の面接では、最初にその論作文についての質問、その後、自分自身についての質問がされました。

2. 教員採用試験対策について

私は私立学校を受験する前に、公立の採用試験を2つの自治体で受験していたので、対策のほとんどは公立学校の教員採用試験に向けたものでした。対策講座に参加して論作文や面接練習、試験にはありませんでしたが他の人の教育に対する考え方を知るために集団討論の練習にも参加しました。履歴書の作成や論作文、面接練習、模擬授業および指導案は、教員養成サポート室の森先生と中村先生に個人でもご指導いただきました。

私立学校の試験対策でいうと、まずはその学校の特徴をまとめ、よく知ることから始めました。私立学校は宗教の教えを基に教育活動を行っているところが多いので、宗教についても調べながら理解しました。実際の面接では学校の教育理念や宗教への理解については質問されませんでしたが、その学校のことを理解し、ここで一緒に働きたいという思いを伝えるためには必要なことであつたと思います。私立学校は、公立の教員採用試験と違い、面接官の先生と来年度から一緒に働くことになります。そのため、公立学校の面接試験に比べて、自分自身についての質問が多いように感じました。その際に、他の先生方と協力できること、教育について深く学習してきたこと、学校が目指す人物像に合っているということが上手く伝えられたことが良かった点だと感じています。

反省点としては、公立の採用試験に向けた勉強の仕方に課題があつたと感じています。大学3年生の夏ごろに教員を目指すことを決め、本格的に勉強をスタートしたのは3年生の11月頃だつたと思います。ただ、私は日本史・世界史を高校生の頃に履修していなく、公立の採用試験を目指すには遅かった、又はそこからの勉強量が足りなかったと感じています。自分の専門ではない科目の勉強の仕方を早い段階で確立しておくべきでした。

3. おわりに

どんな教員になりたいのか、自分の軸を持つことで面接の際に一貫性のある話ができたり、勉強している際のモチベーションになったりします。自分が学校で子どもたちと関わっているところを想像して、考えてみてください。

それでも教員を目指す、周囲の人よりも内定が出るのが遅くて気持ちが焦ったり、試験までの期間が苦しくなったりすると思います。私は、同じように教員を目指す仲間と助け合って乗り越えることができました。気持ちの面を支え合ったり、勉強を教え合ったり、教採に関する情報収集をしたりできるコミュニティに助けられたと感じています。ぜひ、仲間を見つけて乗り越えてください。皆さんが合格できるよう、心から祈っています。

合格体験記

政策学部

大竹 諒也

合 格 先：京都市

校種・教科：中学・社会科

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

一次試験：6月14日（筆記）、6月15・21・22日（面接、左記の日程から委員会が指定）

筆記試験は専門科目と一般教養・教職教養の2つの試験がありました。

専門科目は、大問が7つあり、日本史・世界史・地理・公民の分野からまんべんなく出題がありました。世界史や公民に関しては、時事問題を取り扱う出題もありました。これまでの京都市の傾向として、日本史分野に比重が置かれていました。そのため、日本史を重点的に対策していましたが、今年度に関しては日本史については大問1つのみの出題であったため、すべての分野をまんべんなく対策しておくほうが良いと思います。また、時事問題の出題もあったため、普段からニュースなどを見て世界情勢などに気を使っておいたほうが良いと思います。

一般教養・教職教養に関しては、過去問と同じように30分で30問を解いていくというなかなかハードな内容でした。一般教養に関しては、高校入試レベルの設問がほとんどであるため、予備知識で解ける問題が多いという印象でした。教職教養に関しては、学校教育に関するさまざまな法令や規則の中から出題がありました。

面接は、試験官が2人いる個人面接でした。まず社会科の主事から「中学校の社会科の授業で身につけてほしい力は？」と質問がありました。そこからは、私が答えたことに対しての追質問が5問くらい続きました。続く追質問と試験官のまっすぐこちらを向く視線が鋭く、練習では感じたことのない緊張感がありました。1分間の場面指導もありました。以下、質問内容です。

- ① 中学校の社会科の授業で身につけてほしい力はなんですか？
 - そのためにどんな授業をしますか？
 - 教科横断的な授業をするためにどんなことが必要ですか？
 - 教員間連携の課題はなんですか？
 - そのためにあなたができることはなんですか？
- ② いつから京都市の教員を目指しましたか？
- ③ 教員の不祥事がなくならないが、生徒がSNSを交換しようと言ってきたときにどう対処しますか？
- ④ 担任しているクラスに不登校生徒がいたときにどうしますか？
- ⑤ （場面指導）中学3年生に社会科の面白さを語ってください。

二次試験：8月16日（小論文・集団討論）、8月17日（模擬授業・口頭試問）

小論文は2題出題されました。『多様性を学ぶための具体的な方策を論じなさい』と『懇親会で飲酒して自転車で帰ることのダメなところを指摘と、その対策について』という論題が出ました。後者の論題は簡単に書くことができたが、前者の論題は構成を考えるところから書き終える

まで時間がかつかったです。

集団討議は、受験者が7人と試験官が2人いました。議題は「ICTを活用する際の利点と欠点について、多角的に議論しなさい」でした。試験官は一次試験の面接の試験官と同じ人が座っていました。現役の講師をしている人もたくさんいたので、現場で実際に行われていることをもとに議論が進んでいきました。

模擬授業は、授業する場所を指定され、指導案を作成して試験にいきました。ピンポイントで授業する箇所を指定されるので、同じ小単元で構成されている教科書を探すところから苦労しました。「子どもたちが主体的に活動を行う場面を含めた8分間で模擬授業をしなさい」という指定があり、実際に机間指導している様子や助言しているところを見せました。生徒役はいなかったので、誰も座っていない椅子や空間に向けてしゃべり続けました。口頭試験は、本授業で前時までの学びがどう生かされるのかや、評価方法について聞かれました。

2. 教員採用試験対策について

中学校の社会科に関しては、地理・日本史・世界史・公民と出題範囲がとても広いので、スタサプの動画授業を見て学習しました。政策学部では、政治や経済については学ぶことができますが、地理・歴史は全く専門的に扱われないので、自分で教材を買って教員採用試験の2年前くらいから細々と学習しました。

一般教養・教職教養に関しては、出題範囲が膨大であるため、ほぼ対策なしで挑みました。市販の参考書を買って読んでみたりもしましたが、勉強時間も限られていたため、過去問を3年ほど解いて終わりました。私は、授業を真剣に聞くタイプだったので、教職教養の内容に関しては授業でも取り扱われるものであるため、知識として頭に入っていたのが功を奏しました。一般教養に関しても、予備知識で解けるものが多かったため、対策なしです。過去問は、自分の中で解答のペースを計るために3年分解いて終わりました。

面接や小論文対策に関しては、教員採用試験対策講座を利用しました。講座自体は6月頃から開講されていますが、私が利用し始めたのは12月からだったので、小論文対策の途中から受講しました。「もっと早くから講座に行っておけばよかった…」と後悔したのを覚えています。講座を持ってくださっている森先生が本当に熱心に指導をしてくださって、すでに終わっている講座の資料や小論文を添削していただきました。

講座内でも小論文の添削や面接練習などが行われますが、教員養成サポート室に森先生が居られるので、マンツーマンでの面接指導や小論文の添削もしていただきました。

模擬授業に関しては、私が校務支援員として勤めている京都市立中学校の教員の方に協力していただきました。指導案の書き方や、授業内でのふるまい方など、10名ほどの現任教員の先生に助言いただきました。また、二次試験はお盆休み真っただ中に行われましたが、お盆休みに中学校を開けていただいて、一緒に採用試験を受ける講師の先生と教諭の先生とで直前対策もしていただきました。一次試験の面接練習は校長先生や教頭先生も協力していただいて対策しました。

教員採用試験を受けてから後悔したこととして、2つあります。1つ目は、専門科目の対策をもっとしておけばよかったということです。京都市の中学社会科は、傾向として日本史に比重が置かれていました。なので、日本史（特に鎌倉時代以降）を特に重点的に対策しました。しかし、試験を受けてみると日本史は大問1つのみ、しかも出題された内容は奈良・平安時代であったため、完全に読みが外れました。あとは、世界史・地理・公民からまんべんなく出題されたため、日本史以外も学習しておくべきだったと思います。また、京都にゆかりのある問題も出題されました。今年度は「琵琶湖疏水」や「南禅寺水路閣」に関しての出題がありました。また、これに関連してかはわかりませんが、琵琶湖の環境保全に関しての出題もありました。机上の知識だ

けでなく、身の回りで起こっていることもしっかり見ておかねばと思いました。

2 つ目は、時事問題にもっとアンテナを張っておくべきだったことです。今年度は世界情勢や環境保全に関する時事の知識を問う問題が複数問出題されました。日頃ニュースを見ていれば答えられそうなものもありましたが、時事に関しては全く追えていなかったのが、答えられませんでした。普段から、ニュースや身の回りに起こっていることに対して敏感になる必要があると思います。

3. おわりに

昨今、教員不足が叫ばれる世の中ですが、採用試験に行くといくさんの受験者がいます。京都市の中学社会科に関して言えば昨年度よりも志願者数が多いです。その中には、大学生もいれば講師をしながら受験している人もたくさんいます。大学生が現役で教員採用試験に合格するためには、講師の先生と比べても劣らない知識と、大学生だけが出せるフレッシュさが必要不可欠であると思います。仕事に対する専門性や授業力などは、現場で毎日働いて、毎日子どもたちと接している講師の先生のほうが確実に上です。講師の先生たちと圧倒的に違うのは試験の準備にかけられる時間的余裕が大学生にはあると思います。そのアドバンテージと、大学生だから出せるフレッシュな思考や態度を引っ提げて教員採用試験に臨んでください。

教員養成サポート室は絶対に活用したほうが良いです。私は今出川の森先生にお世話になったのですが、とても親身になって受験対策をしていただけます。また、教員採用試験対策講座と一緒に受講した友達は、一緒に採用試験を受ける仲間として切磋琢磨することができました。周りが就職活動を終えて悠々自適な生活をしている中、採用試験の勉強をするということはとても孤独な戦いになると思います。そんな中でも、森先生や仲間たちと励ましあうことで乗り越えることができました。ぜひ教員採用試験対策講座を受講してほしいと思います。

教員採用試験を受けようと思っている人がいれば、早めに実際の現場を見ることをお勧めします。京都市であれば学ボラやスクールインターンで大学から小・中学校や高校に行くことができます。また校務支援員や総合育成支援員、部活動指導員であれば、アルバイトとして給料をもらいながら現場に入ることもできます。学校でどんな教育活動が行われているのかを知ることは、教員採用試験という敵を知るうえで大きな財産になると思います。ぜひ実際の学校現場を体験していただきたいと思います。

長々と書きましたが、皆さんが合格して教員として共に働ける日を楽しみにしています。お手伝いできることがあれば、試験対策もいっしょにやりましょう！応援しています！

合格体験記

文化情報学部文化情報学科

砂田 真優

合格先:京都市

校種・教科:中学校・数学

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

○一次試験

教職・一般教養、専門科目、個人面接(20分程度)

○二次試験

小論文、集団討論(30分程度)、模擬授業(8分間)

一次試験の教職・一般教養では、最新の教育ニュースの話題がよく出題されていた印象です。

京都市の専門科目の大問数は大きく分けて7問ほどでした。内容としては、大学受験レベルの難しい内容の数学問題ばかりなのでできる問題を上手に見つけて解くことがポイントです。また、解答用紙に記入した考え方や計算過程も回収されるので、答えに至るまでの過程も採点対象に入ります。そのため、考え方や過程を他者が見ても分かりやすいように記入する練習をすることも大切です。

個人面接は、河原町の貸会議室で行いました。教員サポート室の面接練習の部屋よりも少し狭い部屋の中に面接官3名いて、3対1で面接しました。1名が教員の不祥事に対する質問や、教育実習について学んだこと等の教職全般の質問をされ、もう1名は数学に関する質問(数学の魅力、数学の教え方等)をされた他、面接官を生徒に見立てたキャリア教育指導の実践を行いました。残りの1名は何も質問されず、聞き手でした。面接当日は、会場についたらまずは控室に行きます。控室で受付を済ませた後、自分の番号が呼ばれるまで待機します。控室で待っている間は、作成した面接ノートを見たりするなど最後の確認をしていました。これから面接がある人も終わった人も同じ控室で受付をします。そのため、終わった人のほっとした表情を見て余計に「終わった人いいな、自分はこれからだ、どうしよう」と緊張が高まってしまうので、他の人に極力意識を向けないようにして自分自身のみに意識が向くように自身に集中することをお勧めします。そして、番号が呼ばれ、指示された部屋に入るとすぐに面接が始まります。面接は面接官との言葉のラリーを上手く取ることが大切なので”面接官に自分の考えを伝える”という一方的なやり取りではなく、“面接官と会話をする”イメージで行うことが大切だと思います。焦ったり、緊張しても自分のペースを保ち落ち着いて普段通り話してください。また、朗ら

かな表情も忘れずに、快活な印象で話すと GOOD だと思います。

小論文は、2 題ありました。1 つは、教員の不祥事の事例に対して、どのような点が誤りなのか、また、どのような対策をすれば事例の不祥事を起こすことがなくなるのかを 6 行程度記入するものです。もう 1 つは、子ども達の多様性の育成にはどのような策が考えられるかを 600 字程度記入するものです。

集団討論は、講師 5 名と学生 3 名の 8 名がメンバーで、面接官は 2 名でした。円のよに座って、各々の机に ABC・・・というようにアルファベットの記号プレートが置かれていました。A さん、B さんというようそれぞれのメンバーの名前を呼びながら討論を進めていきます。集団討論のテーマは、ICT「教育のメリットとデメリットと学校教育でどのように進めていくか」でした。講師の 1 名がリードして積極的に討論を回してくださいました。その 1 名に対して、他の講師の方が話に乗かっていき、討論が軌道にのり、ぽつぽつと学生も発言していくような流れでした。発言するときは挙手をしながら「発言していいですか？」と言発して、自分の考えを述べます。自身の発言は大体短くて 30 秒、長くて 50 秒にとどめていました。長すぎると、他者を置き去りにしているような印象になったり、自身の考えを述べたいだけの人になってしまうので、簡潔に分かりやすく考えを述べるのが大切です。私は、合計 3 回程発言しました。メンバーの中でも平均より少し多いほうの回数だと思います。講師の人は自身の経験をもとに発言されるので、説得力があり圧倒されましたが、練習をたくさん積んで、自分の考えに自信を持ち堂々と発言することが大切です。

模擬授業に対しては、試験日の 2 週間程度前に模擬授業の指導内容が知らされます。私は、第 2 学年の連立方程式の序章(一次方程式の形にして解を求めることを教える部分、加減法や代入法の指導の前の部分)でした。生徒観や指導観、50 分間の授業の展開等を書く学習指導案を事前に作成します。実際の試験では、その中の“生徒が主体的・対話的に授業に取り組める部分”の 8 分間を選んで授業をします。個人面接と同じようにまずは控室で受付をして、作成した学習指導案を提出し、番号が呼ばれるまで控室で待機します。番号が呼ばれて指示された部屋に入ると、面接官が奥の方に 2 名いて、無人の机といすが 4 セット用意されていました。黒板を使用しながら授業をします。生徒役はいないので、机間指導をする際は用意されたいすに生徒が座っていると想像して、いすに話しかけました。8 分間の授業の後は 3 問程の授業に対する質問 2 名からされます。私が質問された 1 例は「授業についていけない生徒に対しては、どのような策を行うか」でした。

2. 教員採用試験対策について

私は、一次試験の教職・一般教養、専門科目は大学 3 年生チャレンジを利用して 3 年次の 6 月に試験を受け、合格しました。そのため、これらの試験対策は 2 年次の 1 月から本格的に始めました。

教職教養に関しては、書店でメジャーで売っている対策本を購入し、電車の中や隙間時間、夜寝る前などに何度も読んでいました。計 50 周はしたと思います。また、教員サポ

ート室の講座の授業スライドや対策プリント等も活用しました。他には、大学の教職科目の講義内容を簡潔にまとめたノートを作成し、それを読み返したりもしていました。

一般教養に関しては、過去問を解くことはもちろんのこと、美術や音楽でよく登場する作家の名前や作家が活躍した時代、作品名などをまとめた表を自分で作成し、見直していました。また、私は理科が苦手なのですが、理科の内容を一通り全て対策することは時間的にも精神的にも難しかったので、自分の得意科目数学や国語などを完璧に正解することを意識していました。

専門科目に関しては、過去問を何度も解いたり、過去問でよく登場する単位について高校で使用していた教科書や参考書でさらに復習したりしました。また、よく間違う自分の苦手科目に関しては、苦手科目の過去問内容やネットから探した類似問題をまとめたノートを作成し、何度も解き直していました。

個人面接に関しては、面接ノートを作成し、対策していました。面接ノートには、このような先輩の合格体験記やサポート室に置いてある教職関連本(個人面接対策に関連するもの)などから、質問例を抽出し、その質問に対する自分の解答を書いたりしていました。他には、いじめ問題、ICT教育、特別支援教育等の教育課題に対する自分の考えを記入したり、なぜ教師になりたいのか、自分の長所短所等の自身に関すること、そして、教育実習や学生ボランティア等で学んだことなどすべて日記のように記入していました。自身が経験したことを記録として残しておいたからこそ、面接でしっかりと自分の言葉で自分の教職に対する熱い思いを持って語ることができたと思っています。また、サポート室の中村先生と面接練習を 20 回程行いました。中村先生は面接練習のたびに質問のパターンを変えてくださるので、広範囲の面接練習を行うことができました。中村先生との面接練習で感じた自分の弱点等も面接ノートに記録して改善に生かしていました。

小論文に関して、私は本当に小論文を書くことが苦手でした。時間内にも終わらないし、文章も分かりやすく書けないしといったようにたくさん悩みがありました。書く回数を重ねてもあまり改善されなかったので、私は最終手段として自分が書いた小論文を暗記する作戦に出ました。まず、メジャーな教育課題をテーマとした出題内容を自分で考えそれに関する文章を作成します。その文章を中村先生に添削してもらい、改善します。それを考えられるテーマすべてで行い、その内容を暗記します。暗記は、「この教育課題についての序論はこれ、策はこの2つ、結論はこうまとめる」といったような内容です。試験日前にこれを暗記しておいたことで、試験当日どのようなテーマであったとしても自分の武器が一通り揃っているので自信をもって挑めました。実際に、制限時間の10分前に完成し、見直しもじっくりできるほど、すらすらと文章を書くことができました。

集団討論に関しては、今出川メンバーとも合同で練習を行いました。参加人数が多い練習の方が実際の本番に近づくので良いと思います。練習では、自分の考えを結論→理由の流れで簡潔に述べること、他者の考えを良く聞いて肯定する言葉を述べること、他者の目を見て聞くこと、話の流れに沿った意見を述べることを意識して行いました。

模擬授業に関しては、今出川メンバーとともに黒板やホワイトボードがあるコアワーキングスペースを借りて練習しました。模擬授業を行った後、互いにフィードバックを行い改

善に努めました。また、自分が模擬授業をしている様子をビデオで撮り、客観的に見てどうなのかを調べることもしました。私は、無意識にチョークで人を指していることに気づいたので、試験前に修正することができました。こうした気づきは本当に重要だったと思います。京都市は事前に模擬授業内容が決まっているので、試験までに何度も練習できます。そのため、自分が十分納得するまで工夫点や授業内容を変更したりして本番に挑むことをお勧めします。教職メンバーの仲間にも「こうした授業展開を考えているんだけど、どう思う？」と聞いてみることで、新たな視点に気づくことができるのでぜひやってみてください。

3. おわりに

試験勉強中は、本当にマイナスな気持ちになることが多かったです。「こんなにやっても教員試験の倍率は高いし、本当に受かるのかな」、「講師の人と戦えるのかな」、「周りは就活も終わって内定があるのに、私の将来はどうなるの?」といった不安です。その中でも最後まで頑張り続けられたのは中村先生と定期的に面接練習を行って先生と話し、不安を聞いてもらったり、自信をつけてもらったりしてモチベーションを維持できていたことやサポート室に何度も通い、同じ状況の教職の仲間とともに勉強し、互いの気持ちを共有できていたこと、自分が作成した面接ノートを見返してこれまで頑張ってきた過去の自分に定期的に触れていたことが挙げられます。これらに共通するのは、「行動し続けること」です。どんなに不安でも、とりあえず勉強し続けたり、モチベーションが下がったら、中村先生や仲間に自分の話を聞いてもらったりして何かしらアクションを起こし続けました。殻にこもって自分だけの世界で不安に襲われているとどんどん気持ちも沈み、合格から離れてしまいます。しかし、自分の心が少しでも前向きになるように行動し、自分の頑張りに自信を持てる行動を少しずつ続けることで合格が見えてきます。私は試験当日までずっと不安でした。けれど、この不安が常にあったからこそ、自分自身に調子の良い余裕を持つことなく、教員試験に向けて行動し続けられたのだと思っています。教員試験はメンタル的にも大変なことです。自分の夢を叶えるための教員試験勉強での頑張りは私の人生において一生ものの経験だと自信を持って言えます。皆さんも夢を叶えるための道のりを最後には満足感・充実感を持って笑顔で終えられることを祈っています。しんどい時は一休みしながら、一步一步その時の自分にできることを進めて、頑張ってください!! 応援しています。

合格体験記

理工学部機能分子・生命化学科
井上 捺稀

合 格 先：京都市
校種・教科：高等学校・理科

Ⅰ. 受験した自治体・学校の試験内容について

【一次試験】

京都市の一次試験は多面的な評価が行われ、教科の専門性だけでなく、コミュニケーション力・教育観など幅広い力が問われる内容でした。

○筆記試験○

筆記は 高校理科（化学）・中学理科・一般教養/教職教養 の３科目で構成されていました。試験は午前９時開始で、開始 20 分前までに着席するよう指示がありました。

〈高校理科（化学）（40 分）〉

例年と比較して易化した印象でしたが、大問数が増えていたため、限られた時間で確実に得点する力が求められました。理論・無機・有機が幅広く扱われ、共通問題として実験計画の検討も出題されました。

〈中学理科（50 分）〉

大問数が多く、物・化・生・地の各分野からバランス良く出題されました。中学内容でありながら高校の応用レベルに踏み込む問題もあり、教科書の丁寧な読み込みが不可欠だと感じました。記述や計算問題が多い点も特徴でした。

〈一般教養・教職教養（30 分）〉

時間に対して問題量が多く、素早く判断し解く力が重要です。

○個別面接○

面接官は３名（主に質問する２名と後方に１名）で、授業に対する姿勢や志望理由といった基本的な項目に加え、卒業研究内容を高校生にもわかる言葉で説明するなど、専門性をわかりやすく伝える力も問われました。また、椅子の横の机には「初回の授業で生徒に伝えたいことを１分でまとめる」という課題が置かれており、思考力と表現力が問われました。

【二次試験】

二次試験では、より実践的な場面を想定した評価が行われました。特に「授業力」「協働性」「教育への視野」を多面的に問われる内容でした。

○集団討論（40 分）○

二次試験理科受験者 10 名が 2 グループに分かれ、討論を行いました。

課題は中央教育審議会答申を踏まえたテーマでした。

教育の重点や答申内容を踏まえて発言する必要があり、京都市の教育施策を理解してい

るかどうかも見られていると感じました。また、発言の量だけでなく、他者の意見をつなぐ姿勢・合意形成への貢献など、協働性も重視されていました。

○論作文（40分）○

大問1（600字）・大問2（200字）の2題構成でした。

時間に余裕がないため、日頃から教育に関するテーマについて自分なりの視点を整理しておくことの重要性を強く実感しました。論理構成をあらかじめ決めておいたことで、落ち着いて書き進めることができました。

○模擬授業（10分）○

模擬授業は「無機化学：ハロゲンの酸化力」がテーマでした。

当日に提示された教科書のコピーのみを使用して、50分間で指導案を作成します。京都府高等学校の試験は事前に模擬授業範囲が公表されないため、どんな単元が出ても対応できるよう、事前に教科書を一通り読み、各章のポイントを押さえておくことが必須であると実感しました。また、板書計画や導入の工夫など、初見でも授業の骨格を短時間で組み立てられるよう準備しておくことで安心です。

2. 教員採用試験対策について

【1～2回生】

- ・母校での部活動指導員・チューター、塾講師開始
- ・スクールインターシップ（1ヶ月間）

これらの経験により、子どもと接する感覚や学校現場の雰囲気を早期に理解でき、教職への動機付けにもつながりました。

【3回生】

- ・9月：過去問（2～3年分）に着手
- ・9月～：一般教養
- ・11月～：教職教養
- ・1月～：専門科目の基礎固め（教科書・参考書の精読）
- ・1月～：学生ボランティア開始
- ・3月～：専門科目演習、面接対策開始

計画的に学習を進められた点は良かった一方、筆記をもう少し早い段階で深めるべきだったと感じています。

【4回生】

- ・4月以降：過去問の反復
- ・5～6月：苦手分野の強化（共通テスト・関関同立レベルの問題演習など）
- ・6月～：模擬授業対策
- ・7月～：論作文対策

4回生は研究室での活動が忙しくなるため、早期に筆記を固めておくことの重要性を感じました。

3. おわりに

教員採用試験は長期間にわたる取り組みとなりますが、その過程で得られる学びは大きく、必ず教員としての力になります。私は、日頃から子どもと関わる経験を積んだことで、自分が目指す教師像を明確にすることができ、面接でも自信を持って話すことができました。京都市の試験は、筆記・面接・模擬授業・集団討論など総合的な力が求められるため、

- ・筆記対策は早期に開始すること
- ・面接や模擬授業を繰り返し練習すること
- ・教育ニュースや京都市の教育の重点を日頃から確認する習慣をつけること

が大切だと感じます。

試験当日は緊張もありましたが、「これまでの努力を信じて臨む」という気持ちが、自分を支えてくれました。合格通知を受け取った瞬間は大きな喜びと達成感に包まれ、これから教師としてスタートする責任と覚悟を改めて感じました。これから教員を目指す皆さんには、ぜひ早い段階からさまざまな経験を積み、積極的に挑戦を重ねてほしいと思います。努力した時間は必ず自信につながります。悔いのないように全力で頑張ってください。応援しています。

合格体験記

理工学部機能分子・生命化学科

M.A.

合格先:私立学校

校種・教科:高等学校・理科

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

履歴書・卒業見込み証明書・成績証明書・連絡用提携封筒を郵送した数週間後に、一次試験の日程と持ち物が書かれたものが送られてきた。

一次試験(2025年7月6日)

○筆記試験(60分800字程度)

・一般教養や教職教養に関する問題は一切なく、以下の1問のみが出題された。試験監督 7 人が二次試験のプレゼンテーション及び三次試験の面接の試験管だった。

問:私学法第一条に「この法律は、私立学校の特性にかんがみ、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立学校の健全な発達を図ることを目的とする。」とあります。これを踏まえて、私立学校で働く私学人としての決意表明をしてください。

※試験前に指定のメールアドレスに空メールを送るように伝えられ、一次試験の可否と二次試験の日時と内容、持ち物は試験当日にメールで送られてきた。

二次試験(2025年7月13日)

○プレゼンテーション(30分)

一次試験当日に、一次試験の可否と共に二次試験の内容(下に示した問題と資料、ホワイトボードと黒・赤・青のペンを使用した自筆板書のみもちいてプレゼンすること)と持ち物(①受験票②プレゼンテーション資料 A4 1枚を作製したうえで本人用1部と試験管用7部を印刷して持参)が伝えられた。

問:下記資料を参考に、あなたの学習歴をプレゼンしなさい。

これから求められる「六つの感性(センス)」

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| 1. 「機能」だけでなく | 「デザイン」
未来をデザインする、生き方をデザインする |
| 2. 「議論」よりは | 「物語」
「自分史」を語る |
| 3. 「個別」よりも | 「全体の調和(シンフォニー)」
全体像をつかむ |
| 4. 「論理」ではなく | 「共感」
相手の気持ちを直感的に感じ取る |
| 5. 「まじめ」だけでなく | 「遊び心」
何事も楽しんでやる |
| 6. 「モノ」よりも | 「生きがい」
幸福の追求 |

ダニエル・ピンク著大前研一訳「ハイコンセプト」より

たとえ内容が途中で、時間になればそこでプレゼンは終了になり、その後プレゼンの内容についてではなく、なぜその内容を板書したのか、プレゼンをしてみて思ったことはあるかなどを質問された。また、プレゼンが30分で終わらなかったのも、なぜプレゼンを時間内に終わられなかったと思うか（板書に想定より時間がかかってしまったなど）、何を改善すればよいと思うかを質問された。プレゼンテーションと質問を含めた一人当たりの時間が決まっており、次の受験生がすでに控室で待機しているため、どんな質問をされても、考え込んで黙ってしまうのではなく、その時自分の思ったことを素直に話すことが大切。

三次試験（2025年7月21日）

○面接（30分）

質問内容

- ・なぜ教員になろうと思ったのか
- ・教員になろうと思ったきっかけとなる出来事（教育実習など）はあるか
- ・履歴書に書いた特技や趣味を始めたきっかけ
- ・趣味や特技から何を学んだか、身に付けたと思うか
- ・自己PRで書いたアルバイトをはじけたきっかけ
- ・自己PRで書いたアルバイトでのやりがいとは何か
- ・自己PRで書いたアルバイトで人と関わるときに気を付けていることはあるか
- ・今まで人間関係で困ったことはあったか
- ・何が原因で困ったのか、何をすれば防ぐことができたと思うか
- ・人と関わるうえで大切だと考えることは何か
- ・研究内容について、なぜその実験をしているのか
- ・（系列校が複数ある学校だったため）大学受験に特化したクラスの生徒たちを教えたいか、学力や学習意欲に差のある生徒たちを教えたいか

始めは主に履歴書に書いた「研究課題、学業で力を入れたこと」「学生時代に力を注いだこと」「趣味・特技」「自己PR」について、きっかけや学んだことを聞かれました。その後、人間関係に関する

2. 教員採用試験対策について

もともと1年間ほど一般企業の就職活動をしており、エントリーシートの作成や面接の経験はありましたが、本格的に教員という仕事に興味を持ったのは2025年の5月の教育実習の後からだったので、教員採用試験の対策はほとんどしていません。一次試験については日時と集合場所以外何も伝えられておらず、問題の形式もわからなかったのも、念のため前日に「教育課程論」や「教育制度と学校経営」の授業資料を見て勉強し、また学校のホームページで学校の掲げる方針や設置されているクラスについて確認しておきました。一次試験では「私学法」というあまり勉強していない範囲が出たため、前日の勉強の内容はほとんど活かされませんでした。問題文で「私立学校の特性をかんがみ」とあったので、ホームページで見た学校の特徴を入れながら決意表明を書きました。私立学校だったからかもしれませんが、学校のホームページの内容を一通り見ておくことは大切だと思います。

二次試験前は、試験日一週間前に試験内容を伝えられたので、試験対策というよりもプレゼンの準備を一週間かけて行っていました。資料の内容に当てはまりそうな自分の経験を探し、資料の項目と自分の経験がどうつながっているのかを自分の言葉で説明できるように、そしてもし板書をするなら実際に板書をする時間を含めたうえで時間内に終わるように練習することが大切だと思います。また、自分の様々な経験の中で、どんな些細な経験であっても、プレゼンや面接のときに話すことができそうなものをピックアップ

プしてどこかに書き留めておくことが大切だと思いました。私の場合は、エントリーシートを書くときに自分の経験を書き出しておいたのが役に立ちました。

三次試験については、なぜ教員になろうと思ったのかと、研究テーマについてだけ離すことができるようにして行きました。また、私は企業の面接のときに履歴書に書いた内容について、きっかけや学んだことを何度も聞かれていたので、その経験が三次試験の面接でも役に立ったのではないかと思います。そのため、面接の対策には「教員になろうと思った理由」と「履歴書に書いた経験のきっかけと学んだこと」を説明できるように練習することが大切だと思いました。さらに、私の場合は「人間関係で困ったこと」というどちらかというとネガティブな内容の質問をされました。自分にとってネガティブな内容の質問をされると少しひるんでしまうこともあるかもしれませんが、もしネガティブな質問がきてもその時に頭の中に思い浮かんだことをそのまま話せばいいと、事前に心の準備をしておくことが大切だと思いました。

3. おわりに

三次試験の面接の中で、相手の笑顔が自分のやりがいにつながっているという話をしたのですが、面接試験の最後に、試験監督の方から「笑顔が大切だって言っていたと思うけれど、まだ面接中に松尾さんの笑顔が見てないよ」と言われ、思はず微笑むと、「その笑顔を大切にしてください」と言われました。面接中はどうしても緊張で顔がこわばってしまいますが、質問に回答するときなど、もし余裕があればふとした時に少し微笑むことが出来るとよいのかなと思いました。

合格体験記

理工学部数理システム学科

澤岬 小太朗

合 格 先:大阪府

校種・教科:高校・数学

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

大阪府の高校を受験しました。私は 1 次試験について三年次受験を行って合格しました。内容はあまり覚えていませんが体感 8 割から 9 割程度で合格したと思います。二次試験については面接について以下聞かれたことになるので是非参考にしてください。

面接:

- ・模擬授業の出来はどうですか？
- ・誰かに模擬授業を見てもらいましたか？
- ・教員を志望した理由と自己 PR を合わせて 1 分程度でお願いします。
- ・なぜ塾ではなく高校数学を希望しているのか。
- ・数学の魅力を伝えたいと言っていたが、学力の低い生徒に対してはどうしていくか。
- ・いじめを受けているが公にはしてほしくないと相談があったらあなたはどうか。
- ・数学を学ばなければならない理由とは。
- ・数学なんていらないという生徒にどのように声掛けをする？
- ・大阪府の教育課題は？
- ・不登校の原因は？
- ・不登校にどう対応する？

以上になります。もちろん履歴書やその場の受け答えで質問の内容はどんどん変わるので、参考までに頑張ってください。

2. 教員採用試験対策について

1 次試験は参考書一冊と過去問に加えて適宜学習指導要領や中央教育審議会答申などを読みこみました。2 次試験については、面接に関しては 4 年生に入ってから同じ教師を目指す友人 4,5 人といくつも質問を考えて模擬面接を行ったり、大学の面接対策のイベントなどに申し込んで先生方に見ていただきました。専門科目のテストでは高校の時に使っていた参考書を解きなおす時間が多く、こつこつ進めていった点がよかったと思います。

3. おわりに

これを読んでいる方は教育実習が控えていたり、卒業研究が控えていたり不安なことがたくさんあるかもしれません。この数年を踏ん張って乗り切ることがこの先の未来を大きく変えるかもしれないと思って最後まで頑張ってください。応援しています。

合格体験記

社会学部 社会福祉学科

T.R.

合格先:京都市

校種・教科: 小学校

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

○1次試験

- ・筆記試験(専門50分間+教養30分間)
- ・個人面接試験(10分間・面接官2人)※場面指導あり

○2次試験

- ・集団討議(10人ほど)
- ・小論文(40分間)
- ・模擬授業(5～10分間)

2. 教員採用試験対策について

○1次試験

【筆記試験】

まず試験勉強をする前にすべきことは受ける自治体の過去の出題傾向を確認することです。勉強教材を選ぶ際にも出題傾向が載った教材を選ぶことをお勧めします。四年連続で出題されている範囲などもあり、出題傾向の高い範囲を勉強するだけでほとんど合格に近い点数がとれるかと思います。実際に私も全ての範囲を学習したわけではありませんが合格することができました。焦らず、苦手な範囲や受ける自治体の出題傾向の高い範囲を重点的に行えば問題なく合格できるかと思います。

【個人面接】

志望理由やどんな教師になりたいのか、長所短所、等の質問がありました。ここでは教師への意気込みや志望度をはかる質疑が多いと思います。面接時間は10分間と短いので簡潔な回答が求められます。「なぜ教員になりたいのか」「どのような子どもを育てたいのか」「どのような教員になりたいのか」「なぜこの自治体を選んだのか」といった点を自己分析で整理しておき、聞かれたらすぐに答えられるように事前に練習をしておくと思います。

場面指導で私の出題されたテーマは「運動会の朝の声掛けを1分間で行う」でした。出題テーマは保護者対応やいじめ問題など難しい対応を求められるものもあることを想定し、どのような行動が教師として相応しいか勉強しておく必要があります。私は学校ボランティアをしたことが無いのですが、場面指導の問題に対応できるように経験しておけば安心して受験

できたなと思うので、できる方は学校で子どもと触れ合い、経験を積んでおくことをお勧めします。

○2次試験

【集団討議】

討議する内容は「京都市ならではの教育について」というような内容のテーマだったかと思います。テーマについては予想できませんが、受ける自治体の載せている「学校教育の重点」などの情報をゲットしておくことをお勧めします。また、ICT 活用の具体的な手段や授業で実際に使う教育方法について理解しておくことと討議に参加しやすくなると思います。実際の討議では特にリーダーなどは決めずに挙手で発言をしていく形でした。協調性、積極性が求められる場面だと思いますので頑張ってください。

【小論文】

過去問などでどのような問題が出題されているのか把握し、しっかりと自分の意見を述べられるようにしておくと思います。決められた文字数できちんと意見を書ききることができるように序論・本論・結論それぞれどのような内容を書くのか良い回答例などをみて学習しておくと思います。

【模擬授業】 小学4年 道徳

試験内容について科目と範囲が事前にサイトにアップされます。京都市は試験当日までに十分期間がありますので、いろいろな教科書や資料を比較したりして準備を進めれば特に問題ないかと思います。(自治体によっては当日その場で作成した指導案で授業を行うこともあるようです)色々な教科書を見比べると「生徒に学ばせたい、もの・力は何なのか」が見えてくるはずなので、その軸をしっかりと持って指導案を作成することが重要かと思います。

本番では黒板を使用しましたが、磁石などの黒板に張り付けるような教材の持ち込みは禁止されています。(指導案のみ持ち込み可)教材はそこにある体で、また生徒もその場にいるという想定で話しかけるような授業が求められます。笑顔で明るく、自信をもって挑むことが大切だと思います。模擬授業終了後に作成時のポイントや模擬授業をしての自己採点等についていくつか質問されました。自分の作成した指導案をしっかりと読み込んでおく必要があります。

3. おわりに

私は教員採用試験対策講座等の試験対策には特に何も参加をしておらず、学校ボランティア・教育実習なども未経験でしたが今回、合格を頂くことができました。「先生になるんだ」という強い自信をもって事前準備を行い、挑めば大丈夫だと思います。諦めずに頑張ってください。もちろん対策講座や学校ボランティアに参加することでより合格を確かなものにするができると思うので、参加できる方は参加して、合格の確率を1%でもあげて試験に挑んでください。応援しております。

合格体験記

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科

I.H.

合 格 先:滋賀県

校種・教科:小学校

I. 受験した自治体・学校の試験内容について

○一次試験:筆記試験(教職教養+一般教養+専門科目)

小論文(30分 600文字)

○二次試験:模擬授業(構想8分+授業10分)

体育実技(構想20分+発表10分)

集団討論(20分間)

面接(15分?)

○一次試験

[筆記試験]

今回の筆記試験では、教職教養と一般教養が5択のマーク式で出題されました。問題は、これまでの過去問から大きく外れた内容はほとんどなかった印象です。

専門科目(小学校全科)は、国語・算数・理科・社会・外国語・図工・家庭科・音楽・体育・生活の7科目で構成されており、特に 国語・算数・理科・社会・外国語は小問数が多いと感じました。また、すべての科目で学習指導要領の穴埋め問題が出題されるため、関連する語句は確実に覚えておくことを強くおすすめします。

[小論文]

小論文は30分で600字を書く課題でした。全国的に見ても、この短い制限時間でこの字数を書く形式は珍しいと思います。そのため、普段から時間を意識して書き込む練習をし、短時間で小論文をまとめる力をつけておくことが大切です。

○二次試験

[模擬授業]

まず前室で、模擬授業で扱う「科目」を事前に伝えます。時間になると構想室へ移動し、そこで選んだ科目の「学年と範囲」が書かれたカードが3枚、裏向きで提示されます。3枚の中から1枚を引き、一度だけ引き直しが可能ですが、引き直した場合は必ずそのカードを使って授業を行わなければなりません。カードの内容に基づいて10分間で授業構想を練り、その際に書いたメモを持ったまま模擬授業会場へ移動します。

模擬授業の会場には面接官が2名おり、生徒役はいません。設備としては、動かないタブレット、黒板、チョーク、スクリーンがあり、使用しても・使わなくてもどちらでも構わないとのことでした。ただし、授業のどこかでICTを取り入れることが事前に指示されていました。

[体育実技]

試験は、8人程度の2グループに分かれて行う形式で、「体づくり運動」の授業づくりが課題でした。会場には、コーン(大・小)、縄、棒、フラフープなどの小道具が用意されており、これらの用具を

活用して、小学生にとって効果的な体づくり運動の授業案を考えるよう指示されました。試験中は、2人の試験官が各グループを見回り、話し合いの様子や協働の姿勢を確認していました。制限時間になると、班ごとに考えた内容を発表して試験は終了となります。

〔英会話〕

英語が流暢な先生から、英語で質問を3問くらいされます。中学英語レベルだと思います。

〔集団討論〕

集団討論は6人1組で行われ、面接官は3名でした。

テーマは「体験活動を通して、子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか、自分の考えを述べなさい」というものでした。討論では、まず自分の意見を述べますが、他の受験者の考えを特定の方向に誘導するような声かけはしてはいけなと事前に説明がありました。

〔面接〕

面接は面接官3名との個人面接形式で行われ、基本的には事前に提出した面接カードの内容を深掘りする質問が中心でした。主な質問内容は次のとおりです。

- 滋賀県の小学校教員を志望する理由
- 最近、すぐに諦めてしまう子どもがいるが、そのような子どもに対してどのように接するか
- 滋賀県の教育に足りないと思う点
- バasketボールの最後の大会で、チームメイトにどんな声かけをしたか

2. 教員採用試験対策について

【1次試験】

1月から本格的に勉強を始めました。それまでにも対策講座に参加して教採対策をしていましたが、まずは教職教養の参考書で基礎的な知識をしっかり入れることを意識しました。

そして滋賀県の過去問を「1日1年分」解くことを繰り返しました。参考書は何周もやり切ったため飽きてしまい、全国版の問題集や教職課程の巻末問題にも手を広げていました。いろいろ試しましたが、過去問だけは必ず解いていたのを覚えています。過去問は傾向がつかめるだけでなく、満点を取れた日は大きな自信になりました。大切なのは「答えを覚える」のではなく、選択肢に出てきた用語の意味まで理解しておくこと。これが本番の初見問題にも対応できる力につながると思います。

また、朝の時間も無駄にしたくなかったので、私はYouTubeで教職教養を15分ほどで説明してくれる動画を見ながら家を出ていました。帰り道はXで毎日1問投稿している人の問題を解いたり、参考書を読んだりと登下校の時間も勉強するよう心がけていました。

専門科目については、東京アカデミーの教材を“完璧にする”ことを目標にしていました。実際、似たような問題が試験でよく出るので、とても助かりました。解けない問題はそのままにせず、さまざまな科目の教員を目指す友達に積極的に聞いていました。みんな快く教えてくれて、その存在が本当に心強かったです。

【二次試験】

面接練習は4月ごろから筆記試験と並行して始めました。回数を重ねるうちに、自分の中で「なりたい教師像」や「育てたい子どもの姿」が明確になっていくのを実感しました。始めのころは質問に詰まったり、うまく答えられなかったりして、毎回反省しながら帰っていました。しかし、その反省をノートに書き出し、「次に聞かれたらこう答える」とまとめていくことで自分の軸ができていきました。また、内容だけでなく、相手にどうしたら思いが伝わるかという“話し方”も練習しました。基礎的なことですが、ハキハキ・ゆっくり・抑揚をつけて・表情豊かに話すことを常に意識していました。これは本番でも活きたと思います。

先生は毎回、時間を測って本番同様の面接をしてくださったので、適度な緊張感の中で練習できた

ことも良かったです。さらに、いろんな人に面接を見てもらうこともおすすめです。多角的な視点でアドバイスをもらえるので、新しい気づきが得られます。私は友達や家族、ボランティア先の先生にも見てもらっていました。また、家では YouTube の面接質問を使って、一問一答の練習もしていました。

模擬授業の練習は 6 月から本格的に始めました。滋賀県は指導案を事前に作ることができず、即興で行う方式だったため、科目を絞りつつ、どの範囲が出ても授業ができるように保健体育の全範囲の授業計画を先生と相談しながら作成しました。実際に黒板に書き、時計を使わず体内時計で時間配分を意識しながら何度も練習しました。回数を重ねるほど自分の癖や長所・短所が見えてきて、それを修正しながら自信をつけていきました。結果として、当日は「教師という演者」として堂々とできたかなと思っています。模擬授業は、1 人でやみくもに練習するより、誰かに見てもらうことが一番大切だと思います。誰が見てもわかりやすく、生徒に寄り添った授業ができるかが鍵になります。

3. おわりに

教員採用試験を受ける後輩の皆さんへ。

私もこの時期は不安だらけで、「勉強しなきゃ」と気持ちばかり焦り、しんどい日々でした。正直、早くこの生活が終わらないかなと思うことも多かったです。

けれど、そんなときに支えてくれたのは、同じく教師を目指す仲間、友達、家族、そして先生方です。たくさん助けてもらいました。しんどい時は一度吐き出してみてください。そして、自分の好きなことをして、リフレッシュしてください。健康第一で、自分と向き合いながら、どうか試験で合格をつかみ取ってきてください。心から応援しています。

【免許資格課程センター事務室】

今出川校地：良心館1階 今出川キャンパス教務センター内（TEL:075-251-3208）

京田辺校地：成心館（2026年夏頃まで嗣業館）1階 京田辺キャンパス教務センター内

（TEL:0774-65-7048）



※免許資格課程センターHP：<https://license.doshisha.ac.jp/license/>



合格体験記

文化情報学部文化情報学科

砂田 真優

合格先:京都市

校種・教科:中学校・数学

1. 受験した自治体・学校の試験内容について

○一次試験

教職・一般教養、専門科目、個人面接(20分程度)

○二次試験

小論文、集団討論(30分程度)、模擬授業(8分間)

一次試験の教職・一般教養では、最新の教育ニュースの話題がよく出題されていた印象です。

京都市の専門科目の大問数は大きく分けて7問ほどでした。内容としては、大学受験レベルの難しい内容の数学問題ばかりなのでできる問題を上手に見つけて解くことがポイントです。また、解答用紙に記入した考え方や計算過程も回収されるので、答えに至るまでの過程も採点対象に入ります。そのため、考え方や過程を他者が見ても分かりやすいように記入する練習をすることも大切です。

個人面接は、河原町の貸会議室で行いました。教員サポート室の面接練習の部屋よりも少し狭い部屋の中に面接官3名いて、3対1で面接しました。1名が教員の不祥事に対する質問や、教育実習について学んだこと等の教職全般の質問をされ、もう1名は数学に関する質問(数学の魅力、数学の教え方等)をされた他、面接官を生徒に見立てたキャリア教育指導の実践を行いました。残りの1名は何も質問されず、聞き手でした。面接当日は、会場についたらまずは控室に行きます。控室で受付を済ませた後、自分の番号が呼ばれるまで待機します。控室で待っている間は、作成した面接ノートを見たりするなど最後の確認をしていました。これから面接がある人も終わった人も同じ控室で受付をします。そのため、終わった人のほっとした表情を見て余計に「終わった人いいな、自分はこれからだ、どうしよう」と緊張が高まってしまうので、他の人に極力意識を向けないようにして自分自身のみに意識が向くように自身に集中することをお勧めします。そして、番号が呼ばれ、指示された部屋に入るとすぐに面接が始まります。面接は面接官との言葉のラリーを上手く取ることが大切なので”面接官に自分の考えを伝える”という一方的なやり取りではなく、“面接官と会話をする”イメージで行うことが大切だと思います。焦ったり、緊張しても自分のペースを保ち落ち着いて普段通り話してください。また、朗ら

かな表情も忘れずに、快活な印象で話すと GOOD だと思います。

小論文は、2 題ありました。1 つは、教員の不祥事の事例に対して、どのような点が誤りなのか、また、どのような対策をすれば事例の不祥事を起こすことがなくなるのかを 6 行程度記入するものです。もう 1 つは、子ども達の多様性の育成にはどのような策が考えられるかを 600 字程度記入するものです。

集団討論は、講師 5 名と学生 3 名の 8 名がメンバーで、面接官は 2 名でした。円のよに座って、各々の机に ABC・・・というようにアルファベットの記号プレートが置かれていました。A さん、B さんというようそれぞれのメンバーの名前を呼びながら討論を進めていきます。集団討論のテーマは、ICT「教育のメリットとデメリットと学校教育でどのように進めていくか」でした。講師の 1 名がリードして積極的に討論を回してくださいました。その 1 名に対して、他の講師の方が話に乗かっていき、討論が軌道にのり、ぽつぽつと学生も発言していくような流れでした。発言するときは挙手をしながら「発言していいですか？」と言発して、自分の考えを述べます。自身の発言は大体短くて 30 秒、長くて 50 秒にとどめていました。長すぎると、他者を置き去りにしているような印象になったり、自身の考えを述べたいだけの人になってしまうので、簡潔に分かりやすく考えを述べるのが大切です。私は、合計 3 回程発言しました。メンバーの中でも平均より少し多いほうの回数だと思います。講師の人は自身の経験をもとに発言されるので、説得力があり圧倒されましたが、練習をたくさん積んで、自分の考えに自信を持ち堂々と発言することが大切です。

模擬授業に対しては、試験日の 2 週間程度前に模擬授業の指導内容が知らされます。私は、第 2 学年の連立方程式の序章(一次方程式の形にして解を求めることを教える部分、加減法や代入法の指導の前の部分)でした。生徒観や指導観、50 分間の授業の展開等を書く学習指導案を事前に作成します。実際の試験では、その中の“生徒が主体的・対話的に授業に取り組める部分”の 8 分間を選んで授業をします。個人面接と同じようにまずは控室で受付をして、作成した学習指導案を提出し、番号が呼ばれるまで控室で待機します。番号が呼ばれて指示された部屋に入ると、面接官が奥の方に 2 名いて、無人の机といすが 4 セット用意されていました。黒板を使用しながら授業をします。生徒役はいないので、机間指導をする際は用意されたいすに生徒が座っていると想像して、いすに話しかけました。8 分間の授業の後は 3 問程の授業に対する質問 2 名からされます。私が質問された 1 例は「授業についていけない生徒に対しては、どのような策を行うか」でした。

2. 教員採用試験対策について

私は、一次試験の教職・一般教養、専門科目は大学 3 年生チャレンジを利用して 3 年次の 6 月に試験を受け、合格しました。そのため、これらの試験対策は 2 年次の 1 月から本格的に始めました。

教職教養に関しては、書店でメジャーで売っている対策本を購入し、電車の中や隙間時間、夜寝る前などに何度も読んでいました。計 50 周はしたと思います。また、教員サポ

ート室の講座の授業スライドや対策プリント等も活用しました。他には、大学の教職科目の講義内容を簡潔にまとめたノートを作成し、それを読み返したりもしていました。

一般教養に関しては、過去問を解くことはもちろんのこと、美術や音楽でよく登場する作家の名前や作家が活躍した時代、作品名などをまとめた表を自分で作成し、見直していました。また、私は理科が苦手なのですが、理科の内容を一通り全て対策することは時間的にも精神的にも難しかったので、自分の得意科目数学や国語などを完璧に正解することを意識していました。

専門科目に関しては、過去問を何度も解いたり、過去問でよく登場する単位について高校で使用していた教科書や参考書でさらに復習したりしました。また、よく間違う自分の苦手科目に関しては、苦手科目の過去問内容やネットから探した類似問題をまとめたノートを作成し、何度も解き直していました。

個人面接に関しては、面接ノートを作成し、対策していました。面接ノートには、このような先輩の合格体験記やサポート室に置いてある教職関連本(個人面接対策に関連するもの)などから、質問例を抽出し、その質問に対する自分の解答を書いたりしていました。他には、いじめ問題、ICT教育、特別支援教育等の教育課題に対する自分の考えを記入したり、なぜ教師になりたいのか、自分の長所短所等の自身に関すること、そして、教育実習や学生ボランティア等で学んだことなどすべて日記のように記入していました。自身が経験したことを記録として残しておいたからこそ、面接でしっかりと自分の言葉で自分の教職に対する熱い思いを持って語ることができたと思っています。また、サポート室の中村先生と面接練習を 20 回程行いました。中村先生は面接練習のたびに質問のパターンを変えてくださるので、広範囲の面接練習を行うことができました。中村先生との面接練習で感じた自分の弱点等も面接ノートに記録して改善に生かしていました。

小論文に関して、私は本当に小論文を書くことが苦手でした。時間内にも終わらないし、文章も分かりやすく書けないしといったようにたくさん悩みがありました。書く回数を重ねてもあまり改善されなかったので、私は最終手段として自分が書いた小論文を暗記する作戦に出ました。まず、メジャーな教育課題をテーマとした出題内容を自分で考えそれに関する文章を作成します。その文章を中村先生に添削してもらい、改善します。それを考えられるテーマすべてで行い、その内容を暗記します。暗記は、「この教育課題についての序論はこれ、策はこの2つ、結論はこうまとめる」といったような内容です。試験日前にこれを暗記しておいたことで、試験当日どのようなテーマであったとしても自分の武器が一通り揃っているので自信をもって挑めました。実際に、制限時間の10分前に完成し、見直しもじっくりできるほど、すらすらと文章を書くことができました。

集団討論に関しては、今出川メンバーとも合同で練習を行いました。参加人数が多い練習の方が実際の本番に近づくので良いと思います。練習では、自分の考えを結論→理由の流れで簡潔に述べること、他者の考えを良く聞いて肯定する言葉を述べること、他者の目を見て聞くこと、話の流れに沿った意見を述べることを意識して行いました。

模擬授業に関しては、今出川メンバーとともに黒板やホワイトボードがあるコアワーキングスペースを借りて練習しました。模擬授業を行った後、互いにフィードバックを行い改

善に努めました。また、自分が模擬授業をしている様子をビデオで撮り、客観的に見てどうなのかを調べることもしました。私は、無意識にチョークで人を指していることに気づいたので、試験前に修正することができました。こうした気づきは本当に重要だったと思います。京都市は事前に模擬授業内容が決まっているので、試験までに何度も練習できます。そのため、自分が十分納得するまで工夫点や授業内容を変更したりして本番に挑むことをお勧めします。教職メンバーの仲間にも「こうした授業展開を考えているんだけど、どう思う？」と聞いてみることで、新たな視点に気づくことができるのでぜひやってみてください。

3. おわりに

試験勉強中は、本当にマイナスな気持ちになることが多かったです。「こんなにやっても教員試験の倍率は高いし、本当に受かるのかな」、「講師の人と戦えるのかな」、「周りは就活も終わって内定があるのに、私の将来はどうなるの?」といった不安です。その中でも最後まで頑張り続けられたのは中村先生と定期的に面接練習を行って先生と話し、不安を聞いてもらったり、自信をつけてもらったりしてモチベーションを維持できていたことやサポート室に何度も通い、同じ状況の教職の仲間とともに勉強し、互いの気持ちを共有できていたこと、自分が作成した面接ノートを見返してこれまで頑張ってきた過去の自分に定期的に触れていたことが挙げられます。これらに共通するのは、「行動し続けること」です。どんなに不安でも、とりあえず勉強し続けたり、モチベーションが下がったら、中村先生や仲間に自分の話を聞いてもらったりして何かしらアクションを起こし続けました。殻にこもって自分だけの世界で不安に襲われているとどんどん気持ちも沈み、合格から離れてしまいます。しかし、自分の心が少しでも前向きになるように行動し、自分の頑張りに自信を持てる行動を少しずつ続けることで合格が見えてきます。私は試験当日までずっと不安でした。けれど、この不安が常にあったからこそ、自分自身に調子の良い余裕を持つことなく、教員試験に向けて行動し続けられたのだと思っています。教員試験はメンタル的にも大変なことです。自分の夢を叶えるための教員試験勉強での頑張りは私の人生において一生ものの経験だと自信を持って言えます。皆さんも夢を叶えるための道のりを最後には満足感・充実感を持って笑顔で終えられることを祈っています。しんどい時は一休みしながら、一步一步その時の自分にできることを進めて、頑張ってください!! 応援しています。